Floating License Manual (New)

by Sparx Systems Japan

フローティングライセンス マニュアル（新形式）

(2025/07/08 最終更新)

Copyright (c) 2022-2025 Sparx Systems Japan

目次

1 はじめに 4
1.1 フローティングライセンスの仕組み 5
1.2 注意事項 5
1.3 必要システム 5
2 ライセンスサーバの構築手順 7
2.1 インストーラの入手 7
2.2 インストール 7
2.3 ポートの設定 8
2.4 ファイアウォールの設定 10
2.5 SSL 証明書の準備 11
2.5.1 署名済みの SSL 証明書を取得できる場合 11
2.5.2 独自の自己署名の SSL 証明書を作成する場合 12
2.5.2.1 OpenSSL のインストール 12
2.5.2.2 バッチファイルの配置 13
2.5.2.3 設定ファイルの配置 16
2.5.2.4 バッチファイルの実行 16
2.5.3 サンプルの SSL 証明書を利用する場合 17
2.6 SSL 証明書の配置 18
2.7 ポート使用の確認 18
2.8 証明書のインポート 19
2.9 ライセンスサーバへの接続確認 23
2.10 ライセンス管理 27
2.10.1 ライセンスマネージャーについて 28
2.10.2 ライセンスキーの追加 29
2.10.3 ライセンスキーの削除 30
2.10.4 ライセンスキーの有効期限の設定 30
2.10.5 Enterprise Architect の終了時に自動解放 31
2.10.6 ライセンスを外部に持ち出す 31
2.10.7 White List への登録方法 33
2.11 グループの定義 34
3 クライアントの設定 40
3.1 ルート証明書のインポート 40
3.2 ライセンスの設定 40
3.3 ライセンス設定に関する補足情報 43
3.3.1 設定後の動作について 43
3.3.2 複数の製品を取得する設定にした場合の動作 43

Copyright (c) 2022-2025 Sparx Systems Japan

3.3.3 「取得キーの期限」について 43
3.3.4 複数のエディションのライセンスを登録した場合の動作 44
4 設定ファイル 45
5 ログファイル 48
5.1 概要 48
5.2 ログレベルの設定 48
5.3 ログの内容 49
5.3.1 ライセンスの取得・解放についての情報 49
5.3.2 エラーについての情報 50
5.3.2.1 初期化の失敗に関係するログ 51
5.3.2.2 ライセンス取得時の問題に関するログ 52
5.3.2.3 ライセンス解放時の問題に関するログ 52
5.3.2.4 認証の問題に関係するログ – パスワードの場合 53
5.3.2.5 認証の問題に関係するログ – Active Directory を利用している場合 53
6 ライセンスキーを別のサーバに移動する方法 55
7 SSKS 形式・キーファイル形式から HTTPS 形式への移行方法 57
7.1 SSKS 形式からの移行 57
7.2 キーファイル形式からの移行 57
7.2.1 同一マシン内で移行する場合 58
7.2.2 異なるマシンへ移行する場合 58
8 トラブルシューティング 60
8.1 ライセンスマネージャーでライセンスサーバに接続できない 60
8.2 クライアントからライセンスを取得できない 62
8.3 クライアントからライセンスを取得できない（テストボタンより原因推測） 68
8.4 セキュリティ警告が表示される 70
8.5 「提供された証明書は無効です」が表示される 71
9 その他の情報 72
9.1 リモート環境におけるフローティングライセンスの設定 72
9.2 ログ解析アドインについて 74
9.3 特定ユーザーに対するアクセス制限 77
9.4 フローティングライセンスの事前動作確認 77
9.5 フローティングライセンス利用状況の把握 77

Copyright (c) 2022-2025 Sparx Systems Japan

1　はじめに

このドキュメントは、フローティングライセンスを利用する場合に必要なセットアップの手順を示したドキュメントです。セットアップでは、「Pro クラウドサーバ日本語版」（以下、Pro クラウドサーバ）のフローティングライセンスサーバ機能（以下、ライセンスサーバ機能）を利用します。ライセンスサーバ機能は、無料版の Pro クラウドサーバで利用することができます。また、フローティングライセンスの管理は「ライセンスマネージャー」と呼ばれる無料のソフトウェアを利用します。

Pro クラウドサーバのインストールなど、フローティングライセンスの管理には、サーバとなるマシンの管理者権限が必要です。管理者権限を持つユーザーでインストール・利用してください。

ライセンスサーバは、お客様番号ごとに構築いただく必要があります。（1 台のマシン（OS）においてインストール・実行できるライセンスサーバは 1 つのみで、ポートを分けてのご利用はできません。）

旧ライセンスサーバ（SSKS 形式）からの主な変更点は、以下の通りです。

・通信形式が HTTPS 形式
・IPv6 環境でも利用可能
・グループの定義が必須（クライアントでユーザ名・パスワードの入力が必須）
・設定ファイルの一部を UI で編集可能（グループ管理、ログレベルなど）

※旧ライセンスサーバ（SSKS 形式）の参考リンク

・旧形式のライセンスサーバはいつまで利用できますか？
https://www.sparxsystems.jp/forum/modules/xhnewbb/viewtopic.php?topic_id=7666
・フローティングライセンス マニュアル（旧形式）
https://www.sparxsystems.jp/bin/docs/LicenseManagerStartupManual.pdf

このドキュメントで利用している Pro クラウドサーバは、バージョン 6.0.163 です。Pro クラウドサーバのバージョンは、ライセンスマネージャーの画面上部に表示されています。また、Enterprise Architect は、バージョン 17.0 ビルド 1703 です。

このドキュメントでは、Enterprise Architect のフローティングライセンスを利用する場合の設定方法について説明していますが、RaQuest や MDG アドイン製品などのフローティングライセンスを利用する場合も、操作方法は同じです。

このドキュメントに記載していない、ライセンスサーバ機能の詳細な設定項目などにつきましては、ヘルプをご覧ください。
https://www.sparxsystems.jp/help/17.0/procloud_keys.html

Copyright (c) 2022-2025 Sparx Systems Japan

1.1　フローティングライセンスの仕組み

特定のマシンにライセンスを管理するための Windows サービス（サーバ上で動作するプロセスでサービス名は「Sparx Systems Professional Cloud」）が常駐し、各 Enterprise Architect からは HTTPS と IPv4/v6 でライセンスの取得や解放を行ないます。

1.2　注意事項

ライセンスサーバ機能およびフローティングライセンスは、開発者の人数に対して Enterprise Architect を常時利用する人数が少ない場合の便宜（コスト削減）を図り、また個々の開発者がライセンスキーを管理する必要をなくすためのものです。厳密にライセンスの管理を行うことができるものを保証するものではありません。

また、外部からアクセスできるネットワーク上にライセンスサーバ機能を配置する場合、第三者がライセンスを利用できないよう、グループの定義でパスワードを設定する（2.11 章を参照）などの対策を必ず行なうようにしてください。第三者によるライセンスの利用は使用許諾契約違反となりますので、十分にご注意ください。

Enterprise Architect 利用者の Windows アカウント名に全角文字が含まれる場合、Pro クラウドサーバのライセンスサーバ機能でフローティングライセンスを取得できないことがあります。詳細につきましては、以下のページをご確認ください。

・一部のユーザーがライセンスを取得できない
https://www.sparxsystems.jp/forum/modules/xhnewbb/viewtopic.php?topic_id=7596

1.3　必要システム

Pro クラウドサーバの必要システム構成につきましては、以下のページをご覧ください。
https://www.sparxsystems.jp/products/EA/ea_sysreq.htm#pcs
※クライアントは Enterprise Architect バージョン 14.0 以降が必要です。

ただし、ライセンスキーを格納するファイル（キーファイル）の不正コピーを防ぐ仕組みの関係上、RAID が構成されているドライブにインストールする場合(※)には、正常に動作しない場合があります。
※正確には、ライセンスキーの情報を暗号化して格納しているキーファイル（sskeys.dat ファイル）が、RAID 構成のドライブにある場合に、ファイルがコピーされたと判断され、正しく動作しない場合があります。このファイルのみを RAID 構成でないドライブに配置することで回避できます。
（ファイルの作成位置は設定ファイルで変更できます。4 章をご覧ください。）

Copyright (c) 2022-2025 Sparx Systems Japan

Pro クラウドサーバのプロセスおよびライセンスマネージャー（ライセンス管理ツール）は、64 ビットアプリケーションです。

ライセンスサーバ機能に対する推奨スペックは特に定めておりません。通信ポート 1 つを利用して Enterprise Architect からのライセンスの取得あるいは解放を待機・処理するだけですので、フローティングライセンスに関する処理はほとんど行われません。

Copyright (c) 2022-2025 Sparx Systems Japan

2　ライセンスサーバの構築手順

ここでは、Pro クラウドサーバのライセンスサーバ機能の構築手順を示します。

2.1　インストーラの入手

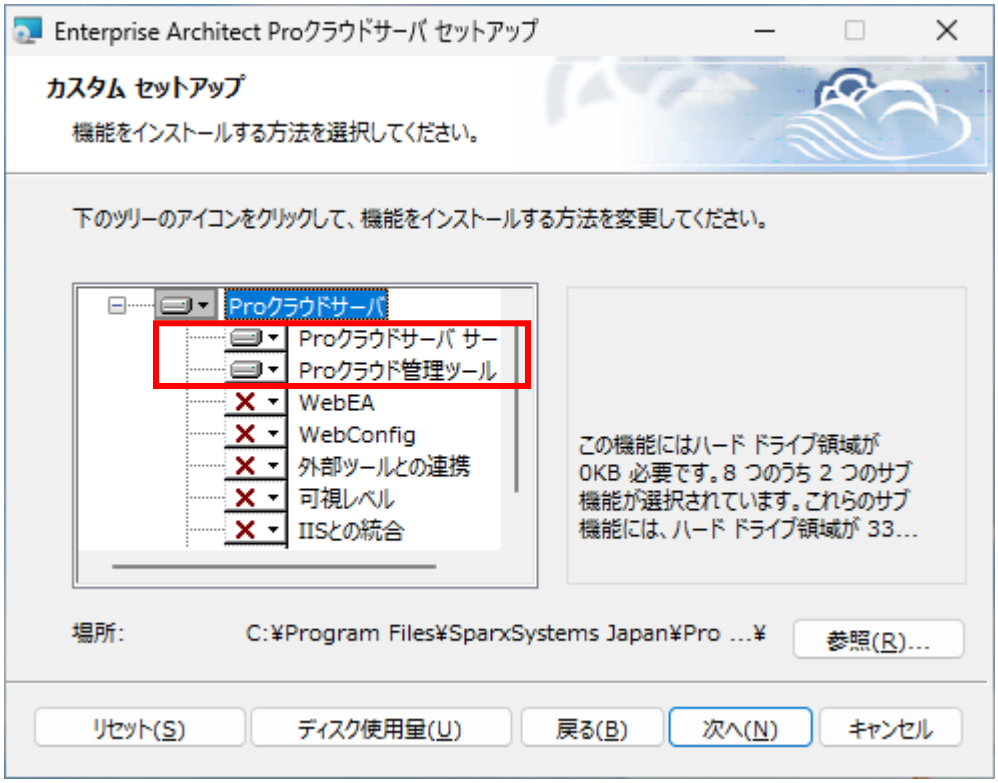
Pro クラウドサーバのインストーラは、以下のページよりダウンロードしてください。
https://www.sparxsystems.jp/registered/reg_ea_down.htm#pcs
（ダウンロード時点で有効なサポート ID とパスワードが必要です）

パッケージ購入の場合には、パッケージに含まれる CD メディアにインストーラが含まれます。ただし、CD メディア作成時点の最新インストーラとなるため、上記ダウンロードページのインストーラよりもバージョンが古いことがあります。（ユーザー登録が完了しますと、上記ダウンロードページで必要なサポート ID とパスワードを取得することができます）

2.2　インストール

Pro クラウドサーバをインストールします。ダウンロードした Pro クラウドサーバのインストーラを実行してください。使用許諾画面が表示されますので、内容に同意できる場合には次に進んでください。

製品の説明の後、下記のような機能の選択画面が表示されます。



Copyright (c) 2022-2025 Sparx Systems Japan

ライセンスサーバ機能を利用するために「Pro クラウドサーバ サービス」および「Pro クラウド管理ツール」の 2 つをインストールしてください。「Pro クラウド管理ツール」には、「Pro クラウドサーバ 設定ツール」および「ライセンスマネージャー」が含まれています。インストールが完了しましたら、次に進んでください。

尚、「Pro クラウド管理ツール」をインストールするマシンは、通常は「Pro クラウドサーバ サービス」をインストールするマシンと同じになりますが、異なるマシンでも可能です。異なるマシンで管理する場合には、プロセスが常駐するマシンでは「Pro クラウドサーバ サービス」のみをインストールし、管理するマシンでは「Pro クラウド管理ツール」のみをインストールしてください。また、1 台にインストールした「Pro クラウド管理ツール」（ライセンスマネージャー）から、複数のライセンスサーバを一括管理することも可能です。ただし、異なるマシンからライセンスサーバを管理する場合には、異なるマシンの IP アドレスを、ライセンスサーバの White List に登録する必要があります。詳細については、2.10.7 章をご覧ください。

「Pro クラウド管理ツール」をインストールした場合には、インストールが完了すると、インストールしたマシンの Windows のスタートメニューの「Enterprise Architect」グループの中に、「Pro クラウドサーバ 設定ツール」および「ライセンスマネージャー」のショートカットが追加されます。そのショートカットからそれぞれのツールを起動することができます。

尚、「Pro クラウドサーバ サービス」をインストールした場合には、インストーラの中で、Windows のファイアウォールに対して、ローカルネットワーク内でライセンスのサービスの通信を許容するためのルールを自動的に追加します。Windows のファイアウォールに対する設定が失敗した場合にはインストール自体がエラーとなります。インストールに失敗する場合には、ファイアウォールに対する権限・動作についても見直してください。

2.3 ポートの設定

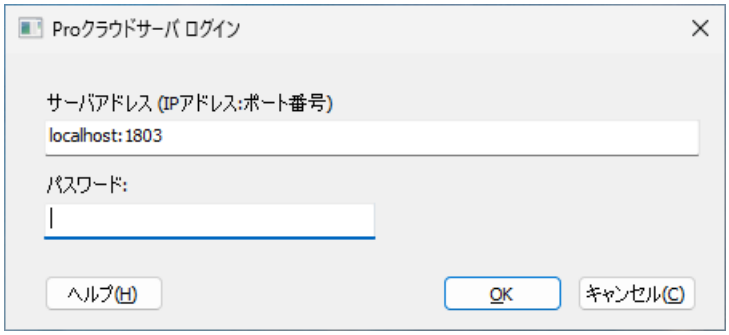
まず、Pro クラウドサーバで事前設定されているポートは以下の 3 つとなります。

項番	ポート番号(既定値)	目的	用途	ポートの変更方法
1	1803	設定ツールの通信	・設定ツールを利用して Pro クラウドサーバの設定の参照・変更	ServicesSSProCloud.config
2	1804	HTTP 通信	・Enterprise Architect クライアントから Pro クラウドサーバに設定されたプロジェクトの利用 **※ライセンスサーバ機能としては利用しません**	設定ツール
3	1805	HTTPS 通信	・Enterprise Architect クライアントから Pro クラウドサーバに設定されたプロジェクトの利用 ・**Enterprise Architect クライアントとフローティングライセンスの取得・解放のやりとり**	設定ツール

Enterprise Architect クライアントからフローティングライセンスの取得・解放をするための通信ポ

ートは、上表の項番 3 になります。もし、項番 3 のポートを変更する必要がなければ、2.4 章に進んでください。（項番 2 のポートは、ライセンスサーバ機能としては利用しませんので変更不要です）

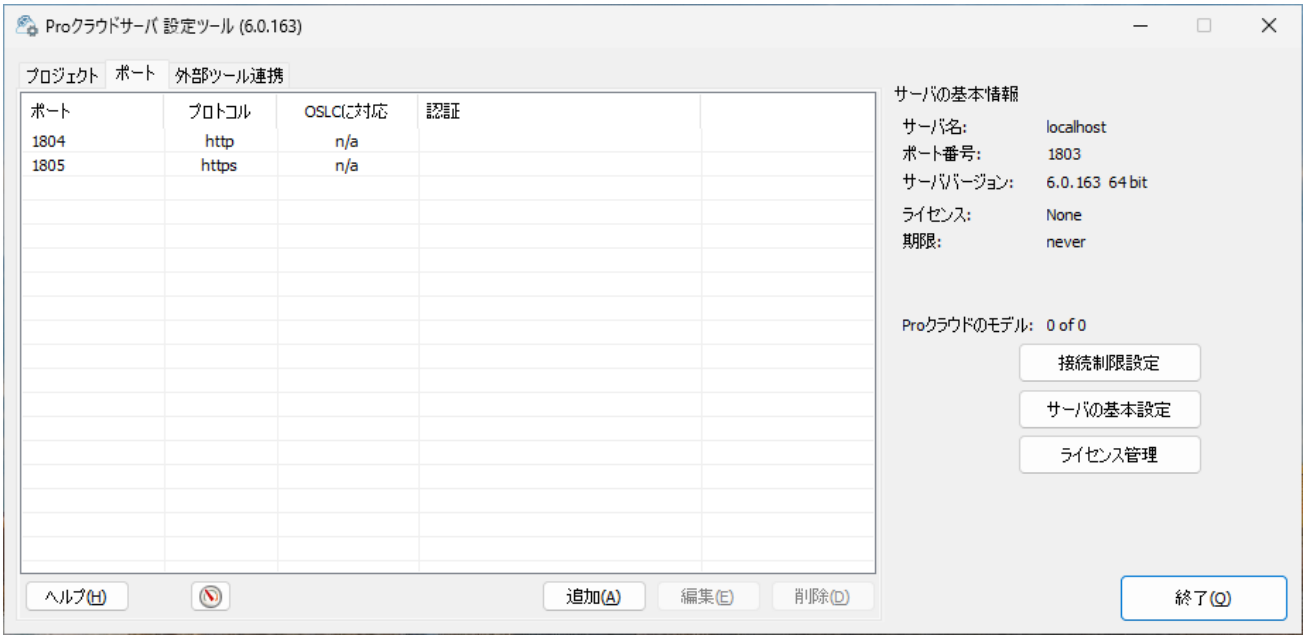
項番 3 のポートを変更したい場合は、Windows スタートメニューより「Pro クラウドサーバ 設定ツール」を起動します。



上記のようなログオン画面が表示されますので、サーバアドレスとパスワードを入力して「OK」をクリックしてください。尚、サーバアドレスで指定するポート番号は、上表の項番 1 となります。既定のパスワードは上記画面の「ヘルプ」で確認できます。

尚、間違ったポート番号を指定した場合には、エラー表示はなく、上記画面が終了しますのでご注意ください。

ログオン後、「ポート」タブでポートの設定を参照・編集することができます。

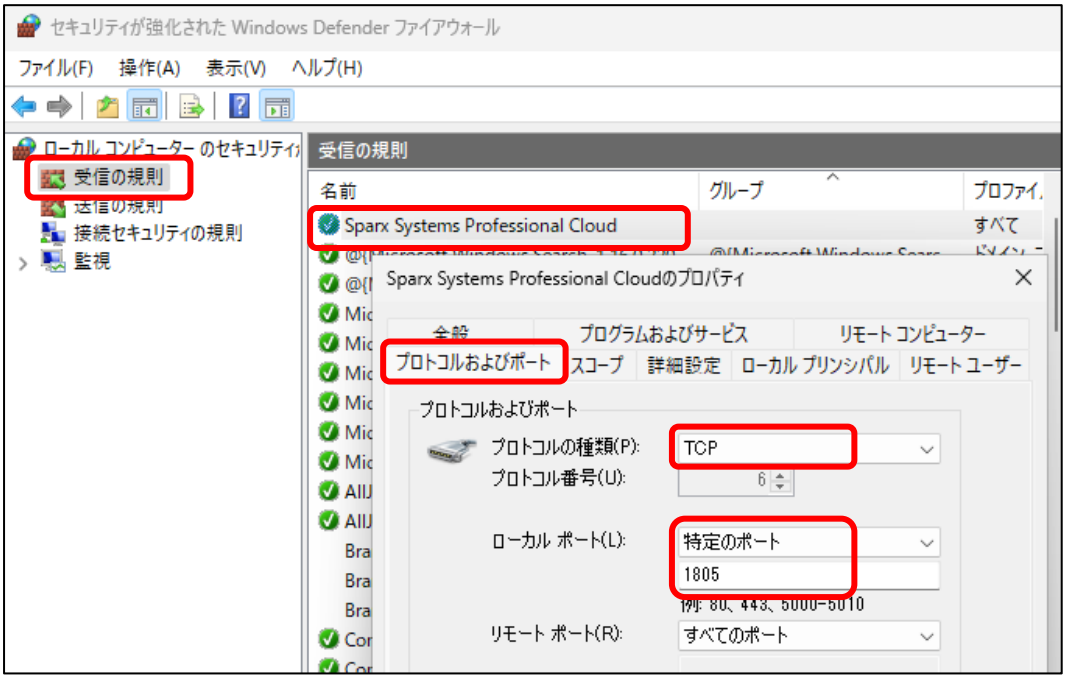


ポートの設定を変更した場合は、Windows サービスの再起動が必要です。

Copyright (c) 2022-2025 Sparx Systems Japan

2.4　ファイアウォールの設定

Pro クラウドサーバのインストーラでは、Windows 既定のファイアウォールに対してローカルネットワーク内で通信可能となるように設定を行ないます。ただし、環境によっては個別にファイアウォールの設定が必要な場合があります。通信ができるようにサーバ側の設定を確認してください。



上記画面は、既定のポート 1805 の設定例です。（ライセンスサーバ機能以外に Pro クラウドサーバの機能を利用する場合には、追加でポート番号を設定する必要がありますのでご注意ください）

上記画面を表示するためには、「Windows」キーと「R」キーを同時に押し、「ファイル名を指定して実行」画面で「wf.msc」と入力してください。

尚、ファイアウォールの設定は Enterprise Architect 固有のものではなく、Windows に共通の内容となりますので、標準サポートの範囲外となります。また、それぞれの会社・組織のネットワークにつきましては弊社では分かりませんので、ファイアウォールの設定に関するお問い合わせにつきましては回答することができません。Web サイトの情報などをご確認いただくか、それぞれの会社・組織のネットワーク担当の方にお問い合わせ下さい。

Copyright (c) 2022-2025 Sparx Systems Japan

2.5　SSL証明書の準備

HTTPS（SSL）ポートを使用するためには、署名済みの SSL 証明書を使って作成した server.pem を配置する必要があります。一般的には、世界的に信頼されているルート認証局（CA）によって署名された SSL 証明書を使用することが望ましいのですが、独自の自己署名の SSL 証明書を作成して使用する、もしくはスパークスシステムズ ジャパンが提供しているサンプルの SSL 証明書を使用することもできます。

署名済みの SSL 証明書を取得できる場合は 2.5.1 章、独自の自己署名の SSL 証明書を作成する場合は 2.5.2 章、スパークスシステムズ ジャパン提供のサンプルの SSL 証明書を使用する場合は 2.5.3 章、にそれぞれ進んでください。

2.5.1　署名済みのSSL証明書を取得できる場合

署名済みの SSL 証明書を取得できる場合には、その証明書ファイルと秘密鍵ファイルを結合して、server.pem を作成します。コマンドプロンプトでのコマンド例は以下の通りです。

```
copy /b example.com.crt+example.com.key server.pem
```

※上記の証明書ファイル（example.com.crt）と秘密鍵ファイル（example.com.key）に相当するものは、お客様自身でご用意ください。Pro クラウドサーバには含まれておりません。
※署名済みの SSL 証明書の発行元・形式については、ネットワークの運用方針によるため、それぞれの会社・組織のネットワーク担当の方にお問い合わせ下さい。

server.pem を作成したら 2.6 章に進んでください。

Copyright (c) 2022-2025 Sparx Systems Japan

2.5.2　独自の自己署名のSSL証明書を作成する場合

独自の自己署名の SSL 証明書を作成する場合、作成方法は数多くありますが、ここでは OpenSSL を利用した作成例を示します。ライセンスサーバマシンとは異なるマシンで作成することも可能です。

注意事項:

- 以下の作成例は、証明書に関連するセキュリティを保証するものではありません。
- OpenSSL は、SSL/TLS 用のオープンソースのツールキットです。詳細は OpenSSL の公式サイトをご覧ください。
- OpenSSL につきましては､弊社ソフトウェアではないため標準サポートの範囲外となりますので、お問い合わせに回答することができません。Web サイトの情報などをご確認いただくか、それぞれの会社・組織のネットワーク担当の方にお問い合わせ下さい。

2.5.2.1 OpenSSLのインストール

利用する環境に合った OpenSSL をダウンロードしてインストールしてください。以下、OpenSSL の 64bit 版を C:¥OpenSSL-Win64 にインストールしたものとして説明します。(別のフォルダにインストールした場合や 32bit 版をインストールした場合には、以下の手順のパスを読み替えてご対応ください)

Copyright (c) 2022-2025 Sparx Systems Japan

2.5.2.2 バッチファイルの配置

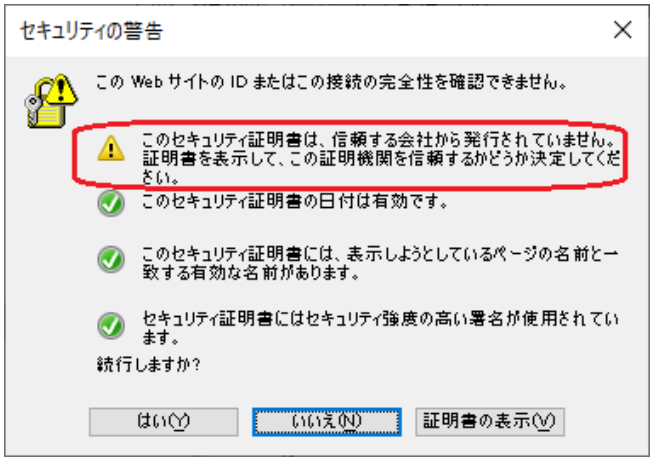
サーバ証明書を作成するためのバッチファイルを配置します。まず、作業フォルダとして C:¥OpenSSL-Win64 に作業フォルダ（例:make フォルダ）を作成します。作業フォルダの作成場所が異なると、バッチファイルが正常に動作しませんのでご注意ください。さらに、作成した make フォルダ内に、C:¥Program Files¥SparxSystems Japan¥Pro Cloud Server¥Service¥Scripts（既定時）に格納されている以下いずれかのバッチファイルを配置します。

(1) サーバ証明書のみ作成（make_server only.bat）
(2) ルート証明書とサーバ証明書を作成（make_root and server.bat）

上記いずれを選択するかについては、以下の「セキュリティ警告表示について」を確認し、決定してください。

<u>セキュリティ警告表示について</u>

サーバ証明書を用意してもルート証明書がないと、ライセンスマネージャーの起動時あるいは EA の起動時に以下のセキュリティ警告が表示されることがあります。（ライセンスマネージャーの起動時は毎回表示されます）



「はい」をクリックすれば、そのまま利用できます。<u>上記表示を抑制することも可能ですが、自己署名のルート証明書を作成・使用するため、お客様自身の責任でご対応いただく必要があります。</u>

上記表示のままでよろしければ上記(1)、表示を抑制したい場合は上記(2)、のバッチファイルを配置してください。尚、証明書の有効期間は約 10 年（3650 日）で設定しています。変更したい場合は、バッチファイルの内容を編集してください。編集箇所は、後述の(1)あるいは(2)の赤字となります。

Copyright (c) 2022-2025 Sparx Systems Japan

(1) サーバ証明書のみ作成

make_server only.bat

```
setlocal enabledelayedexpansion
set CNAME=nothing
set SRVNAME=server
cd %~dp0
cd ..
set PATH=%PATH%;%CD%¥bin
cd %~dp0
echo off
for /f "tokens=1,2,3" %%a in (v3_ext.cnf) do (
   if %%a==DNS.1 (
      set CNAME=%%c
      goto :next
   )
)
:next
echo on
openssl genrsa -out %SRVNAME%.key 4096
openssl req -new -sha256 -key %SRVNAME%.key -subj /CN=%CNAME% -out %SRVNAME%.csr
openssl x509 -req -in %SRVNAME%.csr -signkey %SRVNAME%.key ^
-extensions v3_ext -extfile v3_ext.cnf -days 3650 -out %SRVNAME%.crt
copy /b %SRVNAME%.crt+%SRVNAME%.key server.pem
pause
```

Copyright (c) 2022-2025 Sparx Systems Japan

(2) ルート証明書とサーバ証明書を作成

自己署名のルート証明書も作成します。お客様自身の責任でご使用ください。

make_root and server.bat

```
setlocal enabledelayedexpansion
set CNAME=nothing
set SRVNAME=server
cd %~dp0
cd ..
set PATH=%PATH%;%CD%¥bin
cd %~dp0
echo off
for /f "tokens=1,2,3" %%a in (v3_ext.cnf) do (
  if %%a==DNS.1 (
    set CNAME=%%c
    goto :next
  )
)
:next
echo on
openssl genrsa -out ca.key 4096
openssl req -new -sha256 -key ca.key -subj /CN=%CNAME% -x509 -days 3650 -out ca.crt
openssl genrsa -out %SRVNAME%.key 4096
openssl req -new -sha256 -key %SRVNAME%.key -subj /CN=%CNAME% -out %SRVNAME%.csr
openssl x509 -req -in %SRVNAME%.csr -CA ca.crt -CAkey ca.key -CAcreateserial ^
-extensions v3_ext -extfile v3_ext.cnf -days 3650 -out %SRVNAME%.crt
copy /b %SRVNAME%.crt+%SRVNAME%.key server.pem
pause
```

Copyright (c) 2022-2025 Sparx Systems Japan

2.5.2.3 設定ファイルの配置

2.5.2.2 で配置したバッチファイルが読み込む設定ファイルを配置します。make フォルダ内に、C:¥Program Files¥SparxSystems Japan¥Pro Cloud Server¥Service¥Scripts（既定時）に格納されている設定ファイル v3_ext.cnf を配置します。配置した v3_ext.cnf について、以下の赤字をご自身の環境に合わせて変更してください。（IP アドレスの設定は必要に応じてご使用ください）

v3_ext.cnf

```
[alt_names]
#DNS.1 は Pro クラウドサーバのアドレス（解決可能な名前）です。
#不明な場合は、それぞれの会社・組織のネットワーク担当の方にお問い合わせ下さい。
#どうしても分からない場合は、Pro クラウドサーバのマシン名でお試しください。
DNS.1 = example.com
DNS.2 = localhost
#IP.1 は Pro クラウドサーバの IP アドレスです。
#サーバアドレスを IP アドレスで指定する場合には設定が必要です。
#IP.1 = 127.0.0.1
[v3_ext]
basicConstraints = CA:FALSE
keyUsage = nonRepudiation, digitalSignature, keyEncipherment
extendedKeyUsage = serverAuth
nsCertType = server
nsComment = "OpenSSL Generated Certificate"
subjectKeyIdentifier = hash
authorityKeyIdentifier = keyid,issuer
subjectAltName = @alt_names
```

2.5.2.4 バッチファイルの実行

作成したバッチファイルを「管理者として実行」します。エラー表示がなく、make フォルダ内に server.pem（前述⑵②でルート証明書を作成している場合は、ca.crt も）が作成されていれば、2.6 章に進んでください。

Copyright (c) 2022-2025 Sparx Systems Japan

2.5.3　サンプルのSSL証明書を利用する場合

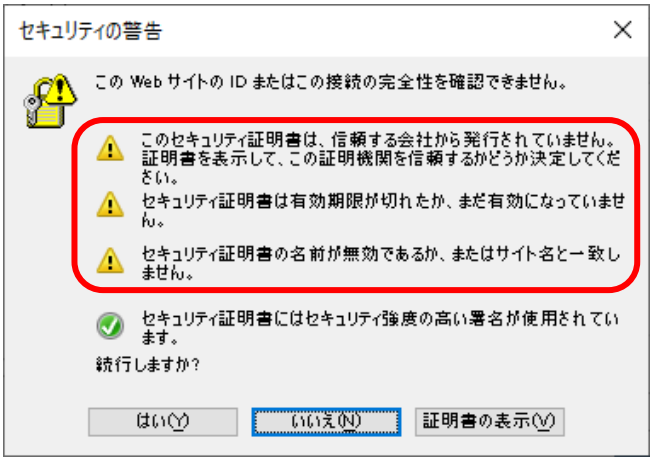
スパークスシステムズ ジャパンでは以下のような利用ケースを想定し、サンプルの SSL 証明書を提供しています。

- スタンダードライセンスをお持ちのお客様が、フローティングライセンスの購入前に、自社環境でフローティングライセンスを利用できるかどうかを確認したい（自身で SSL 証明書は作成せずに、取り急ぎ、事前に動作確認だけをしたい）
- SSL 証明書を作成したがライセンスマネージャーでライセンスサーバに接続できないので、サンプルの SSL 証明書で接続できるか確認をしたい（ライセンスサーバに接続できない原因の切り分けをしたい）

サンプルの SSL 証明書をご利用の場合は、以下の注意事項をご確認ください。

注意事項:

- サンプルの SSL 証明書は、セキュリティを保証するものではありません。お客様自身の責任でご使用ください。
- サンプルの SSL 証明書は、有効期限切れ、仮のホスト名（localhost.localdomain）、となります。また、ルート証明書はありません。
- ライセンスサーバ接続時に以下のセキュリティ警告が表示されます。「はい」をクリックすると処理が継続されます。
- サンプルの SSL 証明書は、すべてのお客様の環境において正しく動作することを保証するものではありません。そのため、環境によっては動作しない可能性もございます。もし動作しない場合であってもサポートの対象外とさせていただきます。



上記の注意事項に問題がないようでしたら、下記よりサンプルの SSL 証明書をダウンロードしてください。ダウンロードした zip ファイル内の server.pem がサンプルの SSL 証明書となります。これを元に 2.6 章に進んでください。

https://www.sparxsystems.jp/registered/bin/pcs_ssl.zip

Copyright (c) 2022-2025 Sparx Systems Japan

2.6　SSL証明書の配置

作成した server.pem を Pro クラウドサーバのインストールフォルダ内の「Service」フォルダに配置してください。（例：C:¥Program Files¥Sparx Systems¥Pro Cloud Server¥Service）

配置が完了しましたら、**Windows サービスを再起動してください。**

2.7　ポート使用の確認

Pro クラウドサーバのログファイルを開いて、Pro クラウドサーバがポートを使用できていることを確認してください。ログファイルの既定の配置場所は C:¥Program Files¥SparxSystems Japan¥Pro Cloud Server¥Service¥Logs です。次のようなログが出力されていれば、使用できています。

2024-09-25 15:00:03 [INFO]: Thread 6　SUCCESS Bound and listening on soap port 1805 (https)

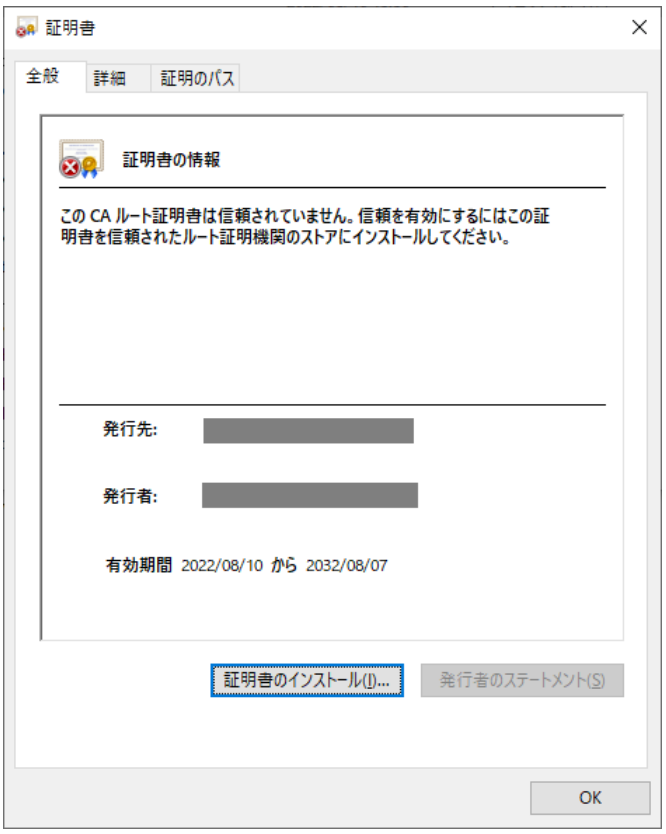
上記ログを確認できましたら、2.5.2.2(2)章でルート証明書も作成した場合は 2.8 章に、それ以外の場合は 2.9 章に、それぞれ進んでください。

上記ログが確認できない場合は、該当ポートに関するエラーが出力されていれば、5.3.2.1 章を確認してください。エラーが出力されていなければ、他のプロセスがポートを使用しているために、Pro クラウドサーバがポートを使用できていない可能性があります。2.3 章でポートを変更し、再度確認してください。

Copyright (c) 2022-2025 Sparx Systems Japan

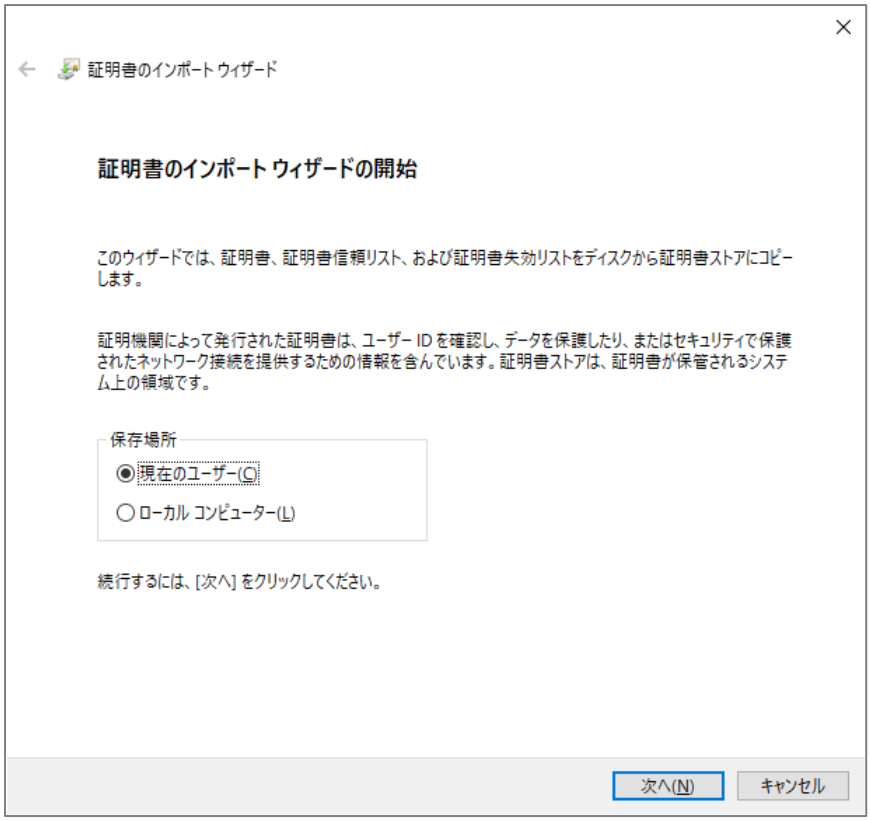
2.8　証明書のインポート

独自の自己署名のルート証明書を作成した場合、ルート証明書をインポートします。ca.crt をダブルクリックします。

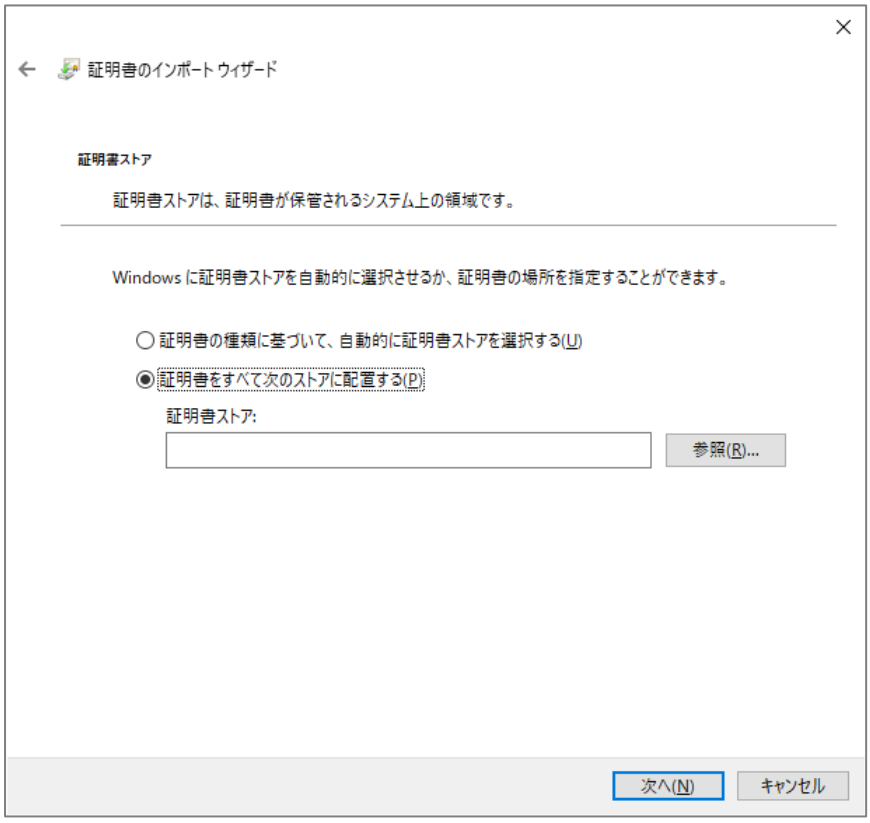


上記画面で「証明書のインストール」をクリックします。

Copyright (c) 2022-2025 Sparx Systems Japan

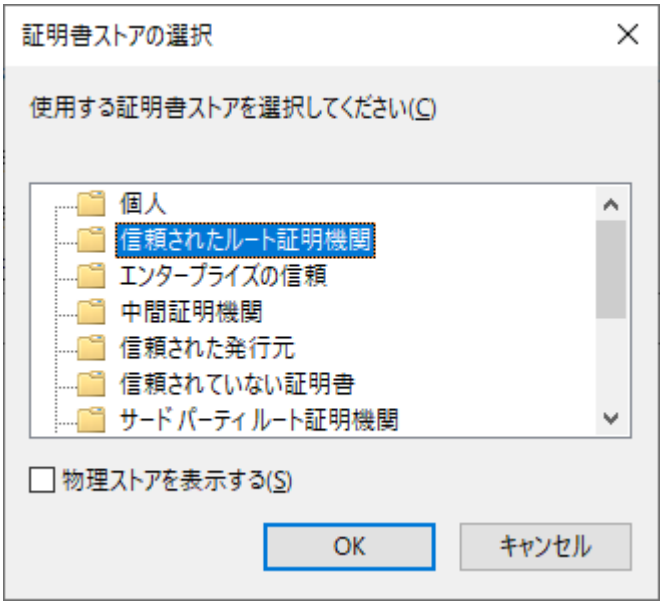


「現在のユーザー」を選択して、「次へ」をクリックします。

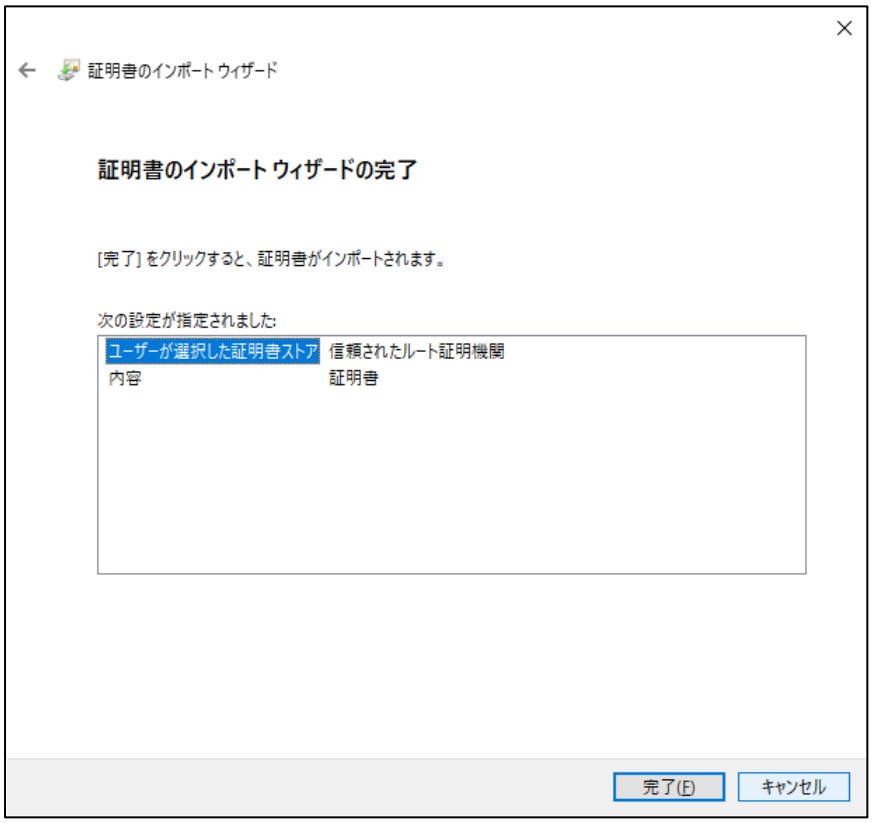


「証明書をすべて次のストアに配置する」を選択して、「参照」をクリックします。

Copyright (c) 2022-2025 Sparx Systems Japan

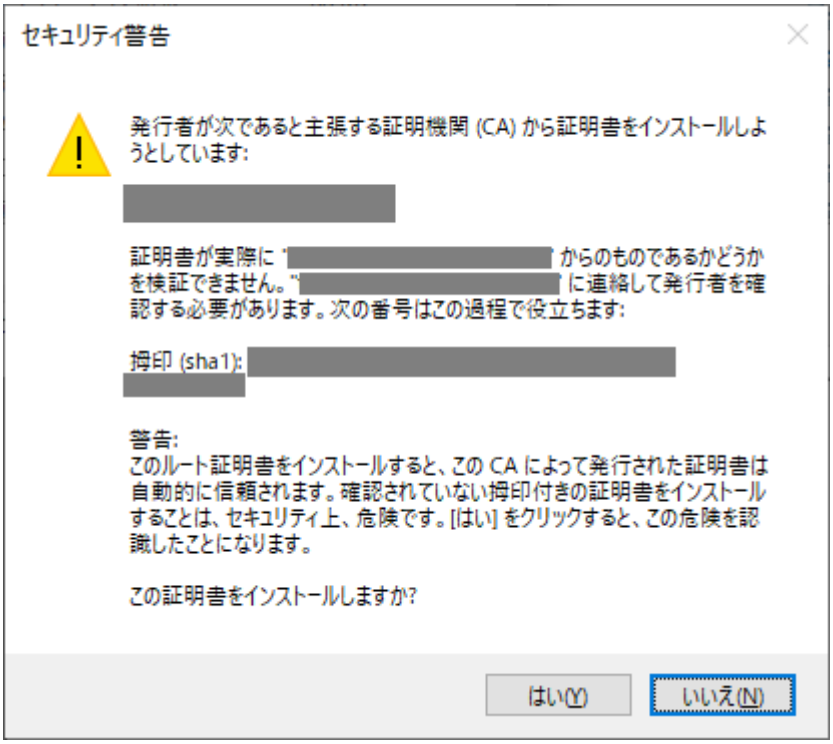


「信頼されたルート証明機関」を選択して、「OK」をクリックします。

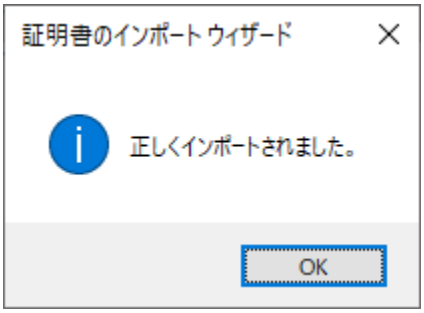


「完了」をクリックします。

Copyright (c) 2022-2025 Sparx Systems Japan



自己署名のルート証明書のため、上記警告が表示されます。内容を確認し、よろしければ「はい」をクリックします。

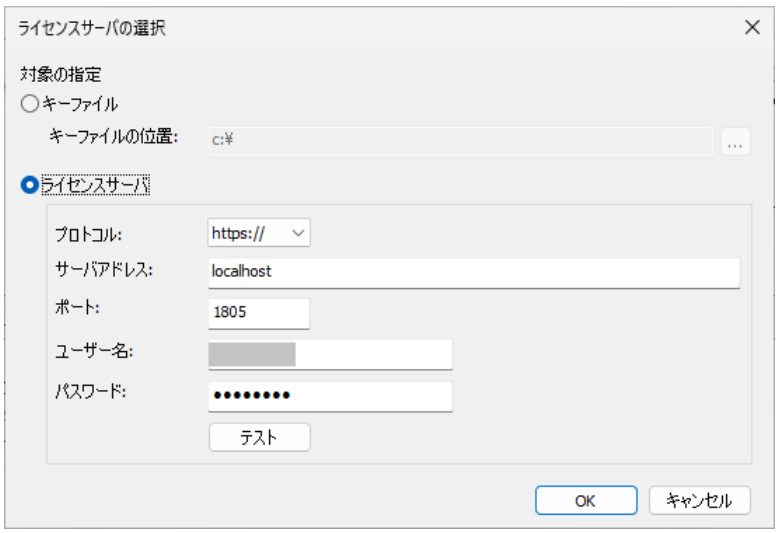


上記画面が表示されれば、証明書のインポートは完了です。

Copyright (c) 2022-2025 Sparx Systems Japan

2.9　ライセンスサーバへの接続確認

ライセンスマネージャーを起動してライセンスサーバに接続できるか確認します。
下記画面で以下のように入力してください。



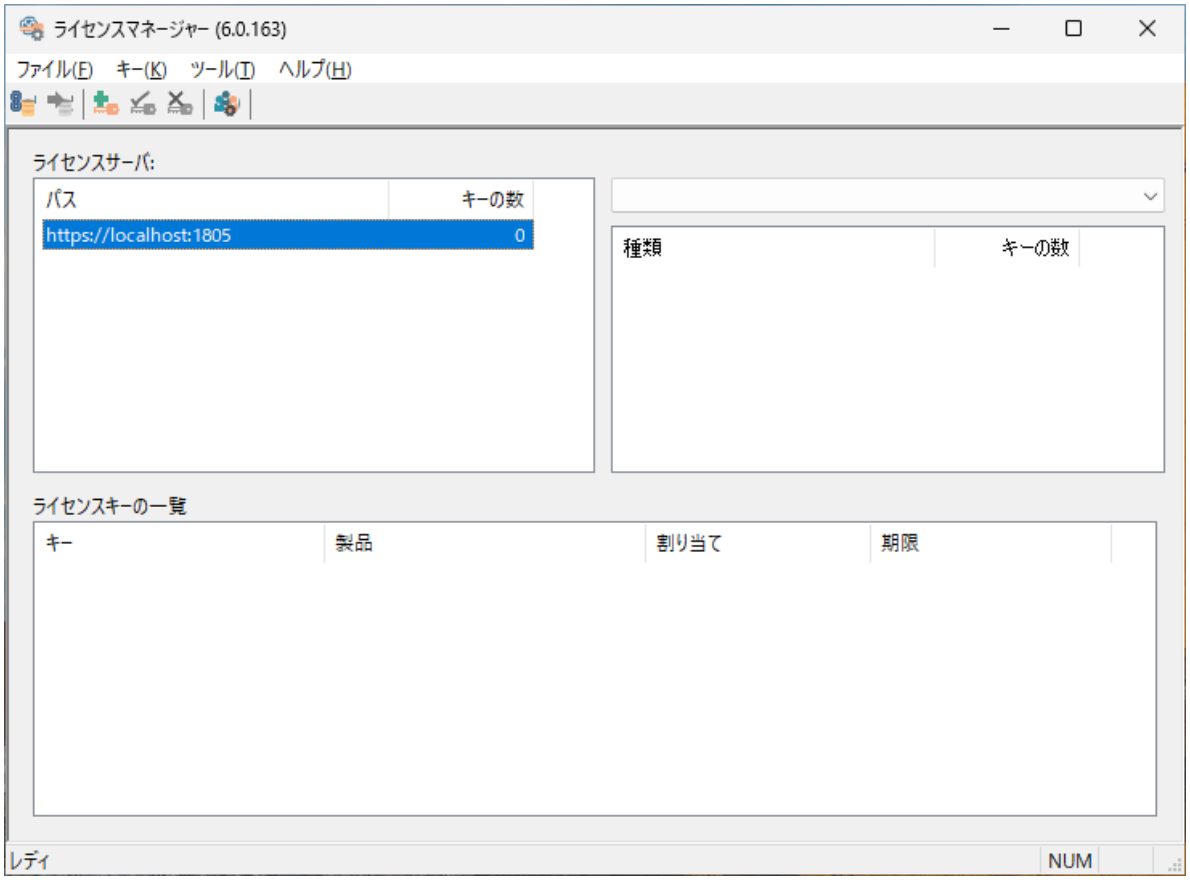
項目	入力内容
対象の指定	「ライセンスサーバ」を選択
プロトコル	「https://」を選択
サーバアドレス	localhost
ポート	2.3 章で設定したポート番号（既定値は 1805）
ユーザー名	※
パスワード	※

※インストール時にサンプルとして事前設定されている下記ヘルプのグループのうち、
「管理者用のサンプル」を利用します。
https://www.sparxsystems.jp/help/17.0/pcs_fls_default_pwds.html
グループの定義につきましては、2.11 章をご覧ください。（ライセンスサーバ独自のグループ定義であり、Windows の ActiveDirectory のグループとは異なります）

「OK」をクリックします。

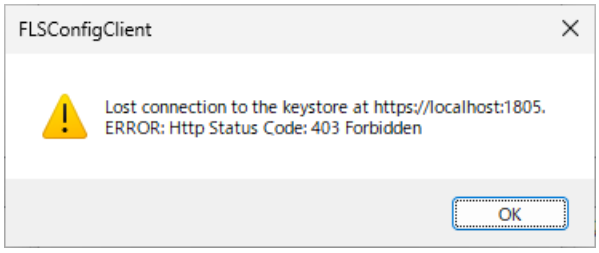
Copyright (c) 2022-2025 Sparx Systems Japan

以下のような画面が表示されれば、ライセンスサーバに接続できています。2.10 章に進んでください。



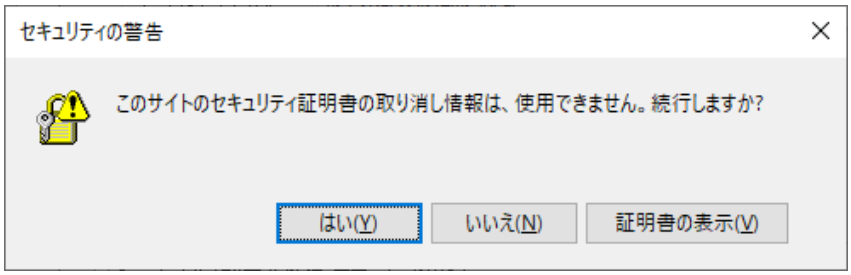
表示されない場合は、以下をご確認ください。

以下のような「Http Status Code: 403 Forbidden」エラーが表示される場合は、「ユーザー名」「パスワード」が管理者用ではない可能性があります。入力内容をご確認ください。

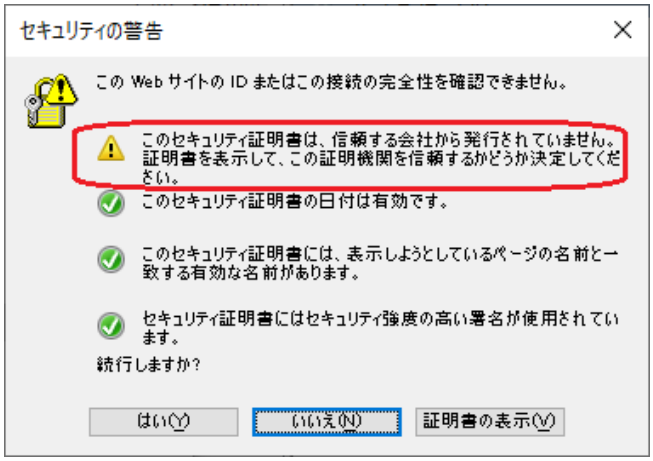


Copyright (c) 2022-2025 Sparx Systems Japan

以下のようなセキュリティ警告が表示される場合は、ルート証明書がインポートされていないか、正しい場所にインポートされていない可能性があります。2.8 章を確認してください。



以下のようなセキュリティ警告が表示されることがあります。



2.5.2.2(1)章で証明書を作成した場合

- ✓ ルート証明書がないために表示されます。「はい」をクリックします。
- ✓ ⚠が上記以外の項目に表示されている場合は、8.4 章を確認してください。

2.5.2.2(2)章で証明書を作成した場合

- ✓ 8.4 章を確認してください。
- ✓ ⚠が上記以外の項目に表示されている場合も、8.4 章を確認してください。

2.5.3 章でサンプルの証明書を利用している場合

- ✓ 2.5.3 章の注意事項に記載のセキュリティ警告と同じ内容であれば、「はい」をクリックします。

以下のような「提供された証明書は無効です」エラーが表示される場合は、8.5 章を確認してください。

Copyright (c) 2022-2025 Sparx Systems Japan

その他のトラブルシューティングにつきましては、8 章をご覧ください。

※フローティングライセンスをお持ちではなく、フローティングライセンスの事前動作確認を実施している場合、ライセンスサーバ側の確認は以上となります。3 章に進んでクライアントの確認を実施してください。

Copyright (c) 2022-2025 Sparx Systems Japan

2.10 ライセンス管理

ライセンスマネージャーを利用して Enterprise Architect のフローティングライセンスを管理しますが、以下の条件を満たすことが必要です。

- フローティング専用のライセンスキーを購入すること
  （スタンダードライセンス（1 ライセンスにつき 1 名利用可能な形式のライセンス）をフローティングライセンスとして利用することはできません。また、フローティングライセンスをスタンダードライセンスとして利用することもできません。）
- フローティングライセンスを利用するマシンから、ライセンスサーバの特定のポートに対して HTTPS 通信ができること（ポートの既定値は 1805・変更可能）

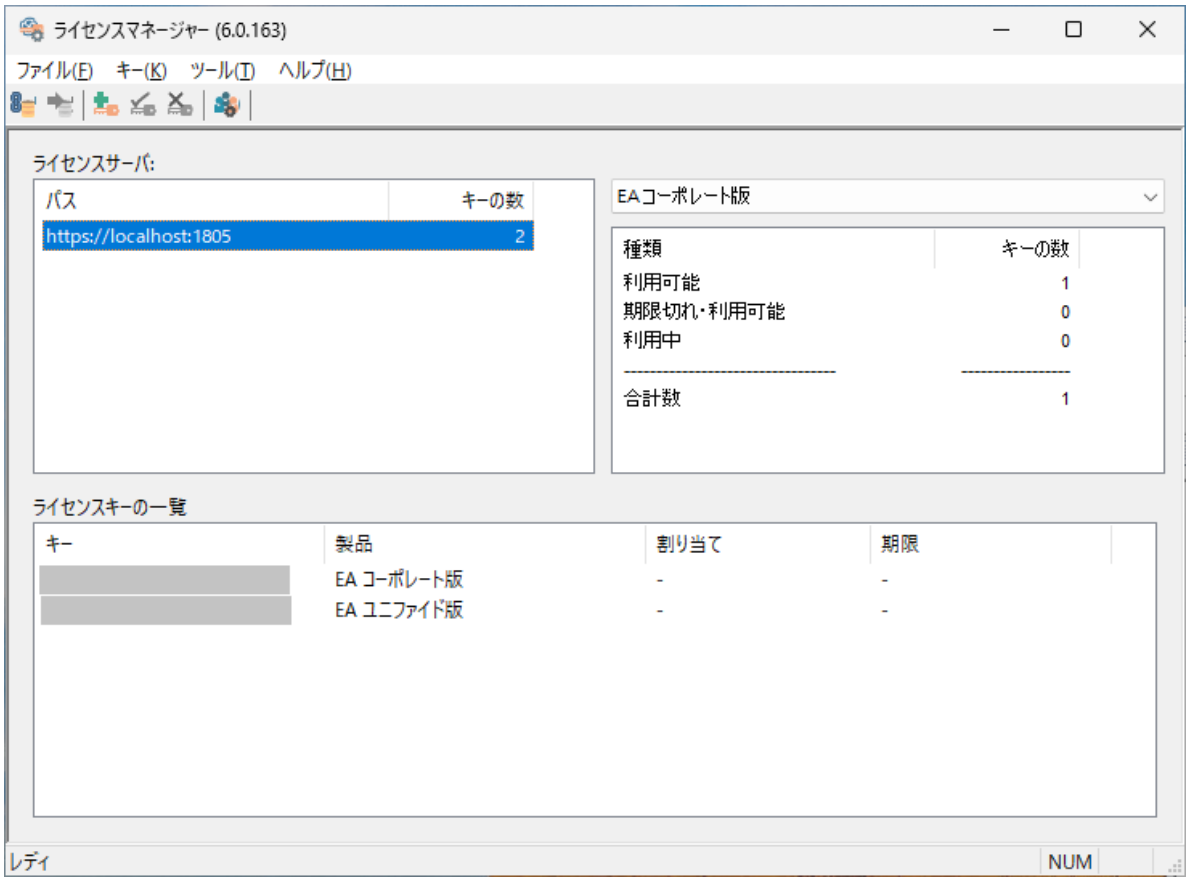
また、Enterprise Architect のフローティングライセンスでは、キーファイルでライセンスキーの情報を管理しています。キーファイルの位置と名前の既定値は、サービスの実行ファイルがインストールされる位置の sskeys.dat ファイルになっています（C:¥Program Files¥SparxSystems Japan¥Pro Cloud Server¥Service¥sskeys.dat）。このキーファイルをコピーした場合の不正利用を防ぐために、キーファイルには配置されたマシンや配置位置に関するいくつかの情報が含まれており、その情報と異なる環境ではキーファイルが利用できなくなります。

キーファイルは、サービスの実行ファイルがインストールされる位置に作成されます。既定の配置場所は C:¥Program Files¥SparxSystems Japan¥Pro Cloud Server¥Service です。）

以下、ライセンスマネージャーの表示内容および操作方法について示します。

Copyright (c) 2022-2025 Sparx Systems Japan

2.10.1 ライセンスマネージャーについて



（上記画面はライセンスキーを登録した状態のもので、「ライセンスキーの一覧」の灰色の四角は、ライセンスキーの情報を隠すために加工したものです。実際には、登録したライセンスキーが表示されます。）

左上の「ライセンスサーバ」の一覧には、管理対象のライセンスサーバが表示されます。この一覧には複数追加できますので、複数のライセンスサーバに分散させてフローティングライセンスを利用している場合にも、まとめて管理することができます。ライセンスマネージャーを起動しているマシン以外にあるライセンスサーバを追加することもできます。

管理対象のライセンスサーバを追加するには、ライセンスマネージャーのメニューから「ファイル」→「ライセンスサーバに接続する」を実行します。「ライセンスサーバの選択」画面が表示されますので、2.9 章を参考に選択あるいは入力をしてください。（異なるマシンから遠隔操作する場合、「サーバアドレス」には管理対象としたいライセンスサーバマシンの名前あるいは IP アドレスを入力します。）

尚、異なるマシンから遠隔操作する場合は、事前にライセンスサーバマシンで Pro クラウドサーバ サービスの White List に異なるマシンの IP アドレスを登録しておく必要があります。登録方法については、2.10.7 章をご覧ください。

Copyright (c) 2022-2025 Sparx Systems Japan

「ライセンスサーバ」の一覧で管理対象を選択すると、画面下部の「ライセンスキーの一覧」に設定されているライセンスキーの文字列と、「どのマシンで誰がそのキーを利用しているか」「利用期限はいつか」が表示されます。この項目を右クリックすると、個別のライセンスキーに対しての操作が可能です。

右上の領域では、ライセンスの種類ごとに利用状況を表示しています。ドロップダウンリストから対象の製品を選択することで、それぞれの製品の利用状況を確認することができます。

利用状況	内容
利用可能	ライセンスキーが誰にも割り当てられていない状態の ライセンスキーの総数
期限切れ・利用可能	過去にライセンスキーが割り当てられたが、設定した期間が 経過したため他の人に割り当てが可能なライセンスキーの総数
利用中	実際にライセンスキーを利用者に提供して利用中であり、 他の利用者に割り当てることのできないライセンスキー

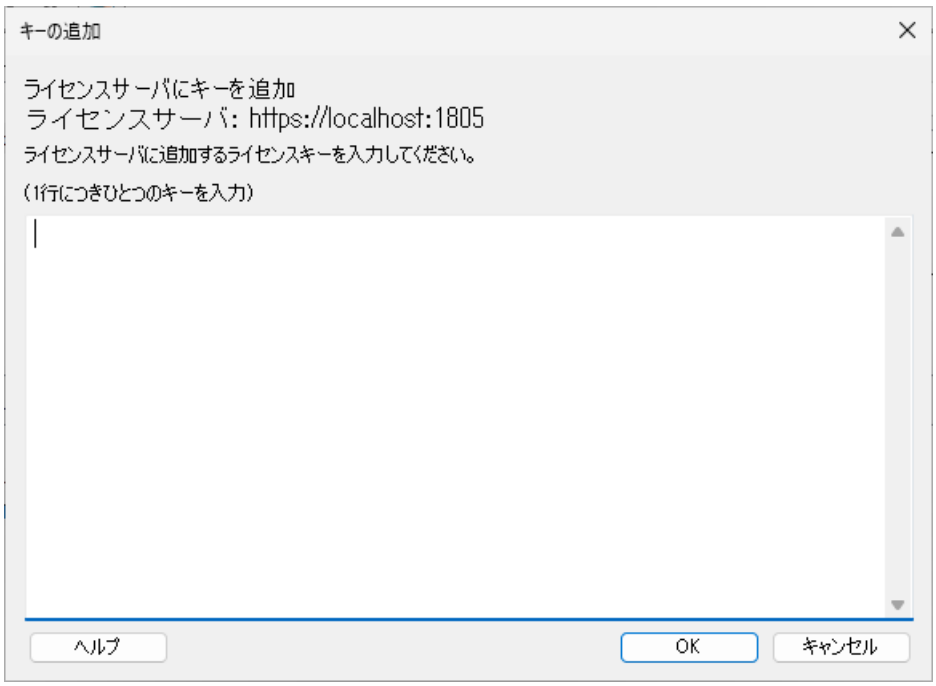
つまり、「利用可能」+「期限切れ・利用可能」の総数が、その時点で該当製品のフローティングライセンスを利用可能な人数となります。

ライセンスサーバに接続できない場合には、8.1 章のトラブルシューティングをご確認ください。

2.10.2 ライセンスキーの追加

キーファイルにライセンスキーを追加します。メニューから「キー」→「追加」を選択すると、次のような画面が表示されますので、購入したライセンスキーを 1 行につき 1 つ入力します。複数のライセンスキーをまとめて登録できます。
（ダイレクト購入で購入した場合には、メールからコピーして貼り付けると確実です。パッケージ購入の場合には、パッケージのサポート登録後にサポートに連絡するとライセンスキーの内容をメールで受け取ることができます。）

Copyright (c) 2022-2025 Sparx Systems Japan



入力が完了したら、「OK」をクリックしてください。入力されたライセンスキーが確認され、内容が正しければキーファイルに追加されます。追加作業完了後はライセンスサーバの一覧が更新され、ライセンスキーの数が表示されます。

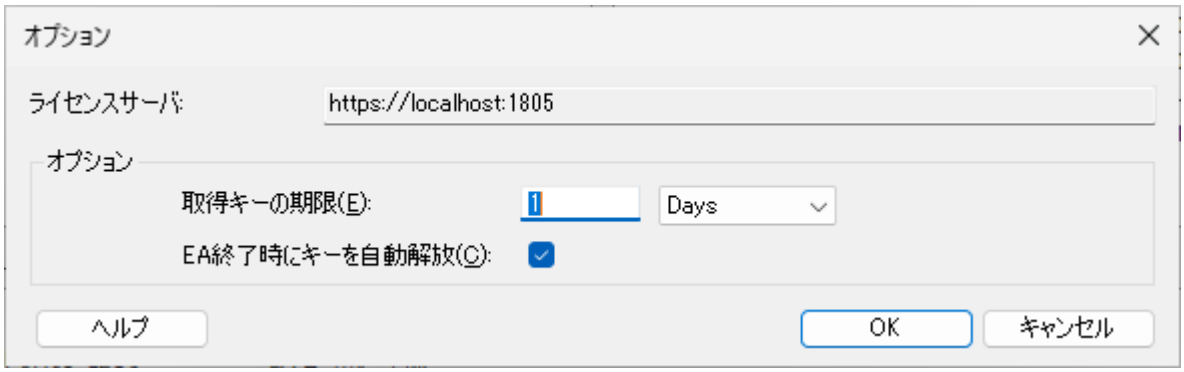
2.10.3 ライセンスキーの削除

ライセンスキーをライセンスサーバから削除するためには、ライセンスマネージャーの画面下部「ライセンスキーの一覧」で、対象のライセンスキーを右クリックして「削除」を実行してください。

2.10.4 ライセンスキーの有効期限の設定

ライセンスキーの有効期限を設定するには、ライセンスマネージャーの画面上部「ライセンスサーバ」で、該当サーバを選択した後、メインメニューから「ツール」→「オプション」を設定してください。キーの有効期限を設定することができますので、数値と、その数値の単位（日あるいは週）を入力してください。尚、この設定はライセンスキーごとの設定ではなく、サーバ全体の設定となります。

Copyright (c) 2022-2025 Sparx Systems Japan



ここで設定した値は、取得されたライセンスキーの有効期限になります。つまり、ライセンスキーを取得後、ここで設定した時間が経過すると、ライセンスサーバに接続できない環境では Enterprise Architect が起動できなくなります。また、ライセンスマネージャーの画面では「キーの数」が、「利用中」から「期限切れ・利用可能」に移行した数値となります。

例えば、「3 Days」（3 日）と指定した場合には、一度ライセンスサーバからライセンスキーを取得すると、3 日経過するまでは、Enterprise Architect の起動時にライセンスサーバに接続できない場合でも、そのまま利用可能になります。起動時にライセンスサーバに接続できる場合には、現在利用中のライセンスキーの期限が（この例では起動時から 3 日後に）更新されます。
（ライセンスキーを取得して持ち出しても、期限が切れた以降は Enterprise Architect を起動できなくなります。また、期限が切れれば、持ち出した分のライセンスキーを他の利用者が利用することが可能になります。）

2.10.5 Enterprise Architectの終了時に自動解放

「EA 終了時にキーを自動解放」を選択した場合、Enterprise Architect を終了すると、設定した有効期限に関係なく、すぐにキーを解放します。この設定を利用することで、他の利用者がすぐにそのライセンスを利用することが可能になります。この項目にチェックが入った設定が、他の製品・ツールなどと同様のフローティングライセンスの動作になるかと思います。この設定の既定値は、チェックが入っている状態となります。

2.10.6 ライセンスを外部に持ち出す

<u>※この仕組みの利用には、Pro クラウドサーバ バージョン 5.1.126 以降と Enterprise Architect バージョン 16.1 ビルド 1626 以降が必要です。</u>

「EA 終了時にキーを自動解放」にチェックが入っている場合には、Enterprise Architect の終了時にライセンスサーバに接続し、ライセンスキーの解放処理を行います。ただし、終了時にライセンスサーバに接続できない場合には、そのライセンスはそのまま保持し、「キーの有効期限」で指定した期間の間はそのライセンスを継続的に保持・利用できます。

Copyright (c) 2022-2025 Sparx Systems Japan

この挙動を応用し、出張時など外出した際に Enterprise Architect を利用することができます。操作は以下の通りです。

1. ライセンスサーバに接続できる環境で Enterprise Architect を起動し、ライセンスを取得します。
2. Enterprise Architect を起動した状態で、マシンをそのネットワークから切断します。

上記操作により、Enterprise Architect の終了時にライセンスサーバに接続できなくなり、Enterprise Architect を終了してもライセンスをマシン内に保持します。この状況であれば、「キーの有効期限」で指定した期間の間は外出先でもそのライセンスを利用できます。
（もちろん、「キーの有効期限」で指定した期間の間は、その取得したライセンスキーは他の人は利用できなくなります。）

「キーの有効期限」で指定した期間が経過すると、ライセンスサーバに接続できる環境でない限り、Enterprise Architect は起動できなくなります。また、「キーの有効期限」で指定した期間内であっても、ライセンスサーバのあるネットワークに接続し、Enterprise Architect を起動・終了させることで、期間内でもライセンスを返却し、他の人が利用できるようになります。

「EA 終了時にキーを自動解放」の設定の ON/OFF と、持ち出しに関する作業の違いは以下の通りです。

	「EA 終了時にキーを自動解放」の設定	
	ON（有効）	OFF（無効）
持ち出すための方法	ライセンスサーバに接続できる環境で EA を起動し、その後ライセンスサーバに接続できない状況にしてから EA を終了 （有線 LAN の場合はネットワークケーブルを抜く・無線 LAN の場合は無線 LAN 機能を無効にする）	ライセンスサーバに接続できる環境で EA を起動 （起動後にそのまま EA を終了しても問題ない）
持ち出した後の注意点	ライセンスサーバに接続できる環境で EA を終了してしまうと、その後はライセンスサーバに接続できない環境では起動不可となる	特になし
取得キーの期限の経過後の動作	起動不可 （取得していたライセンスキーは、自動的に他の人が利用可能になる）	
キー返却（解放）の方法	ライセンスサーバに接続できる環境で EA を起動し終了すると返却	「キーの有効期限」で指定した期間が経過すると自動返却 （指定した期間内は常に保持）

Copyright (c) 2022-2025 Sparx Systems Japan

2.10.7 White Listへの登録方法

ライセンスサーバマシンとは異なるマシンから「Pro クラウドサーバ 設定ツール」あるいは「ライセンスマネージャー」を使用してライセンスサーバを遠隔操作する場合は、事前にライセンスサーバマシンで、Pro クラウドサーバ サービスの White List に、異なるマシンの IP アドレスを登録しておく必要があります。

登録方法は、ライセンスサーバマシンで「Pro クラウドサーバ 設定ツール」を起動してください（ログイン方法は 2.3 章を参照)。「サーバの基本設定」をクリックして表示された画面で、「接続可能マシン」に異なるマシンの IP アドレスを登録します。登録後、サービスの再起動は必要ありません。異なるマシンから「Pro クラウドサーバ 設定ツール」あるいは「ライセンスマネージャー」を使用してライセンスサーバにアクセスできることを確認してください。下記ヘルプも合わせてご確認ください。
https://www.sparxsystems.jp/help/17.0/cloud_server_client_serveroptions.html

Enterprise Architect を利用するのみのクライアントマシンを White List に登録する必要はありません。

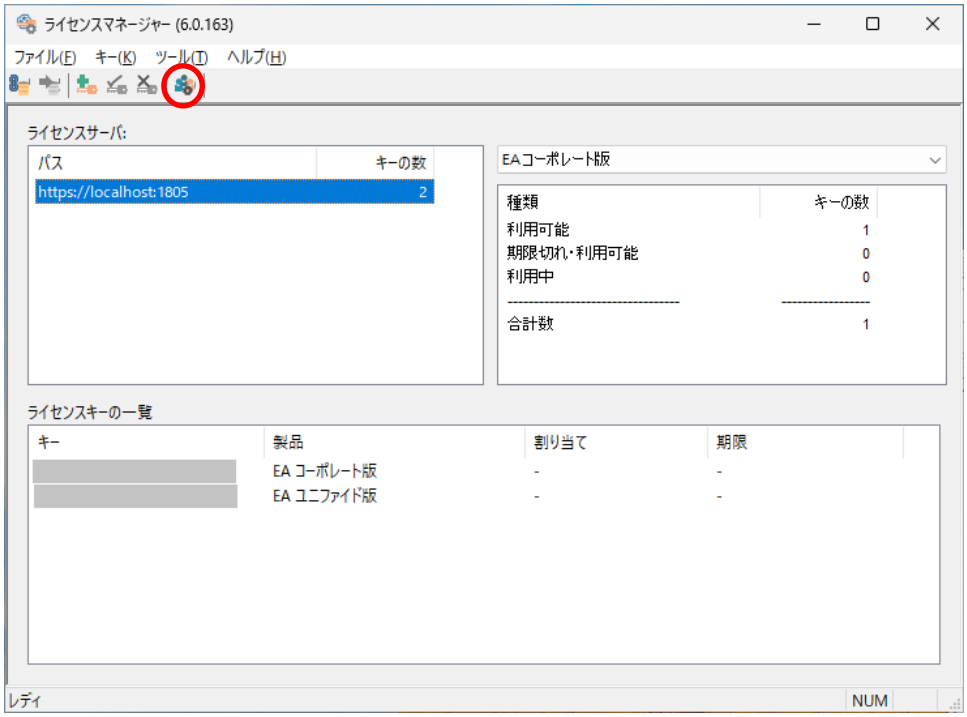
Copyright (c) 2022-2025 Sparx Systems Japan

2.11 グループの定義

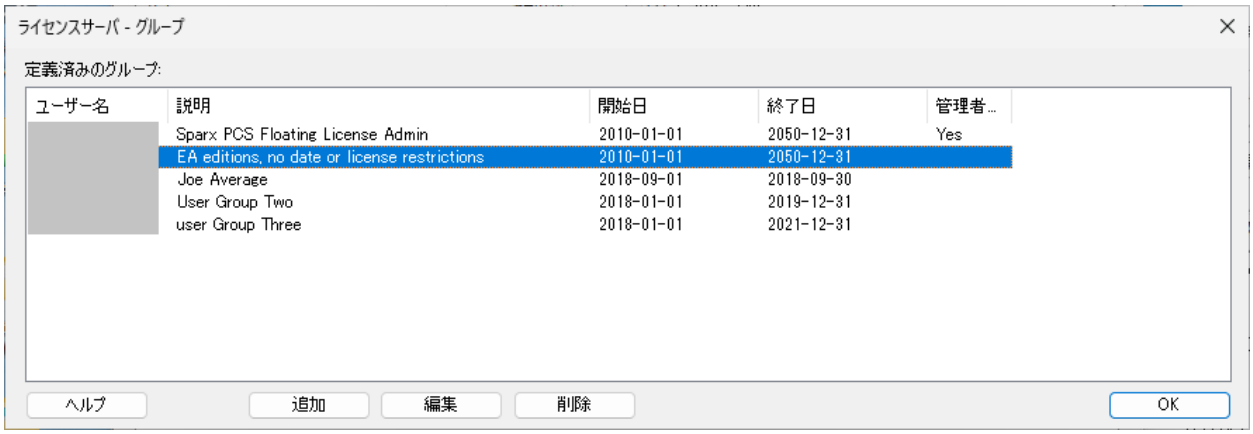
ライセンスサーバ機能を利用するためには、<u>グループの定義が必須</u>となります（ライセンスサーバ独自のグループ定義で、Windows の ActiveDirectory のグループとは異なります）。グループは、誰がどの Enterprise Architect（およびアドイン）を利用できるようにするかを指定することができます。複数のグループを定義してグループごとに利用可能な製品やライセンス数などを定義することも可能です。

尚、インストール時にグループのサンプルが事前設定されています。事前設定のグループ名（ユーザー名）、パスワードにつきましては、下記ヘルプをご覧ください。
https://www.sparxsystems.jp/help/17.0/pcs_fls_default_pwds.html

グループの参照・編集をしたい場合は、ライセンスマネージャーを起動して下記の赤丸をクリックしてください。



グループの一覧が表示されますので、必要に応じて追加・編集・削除を行なってください



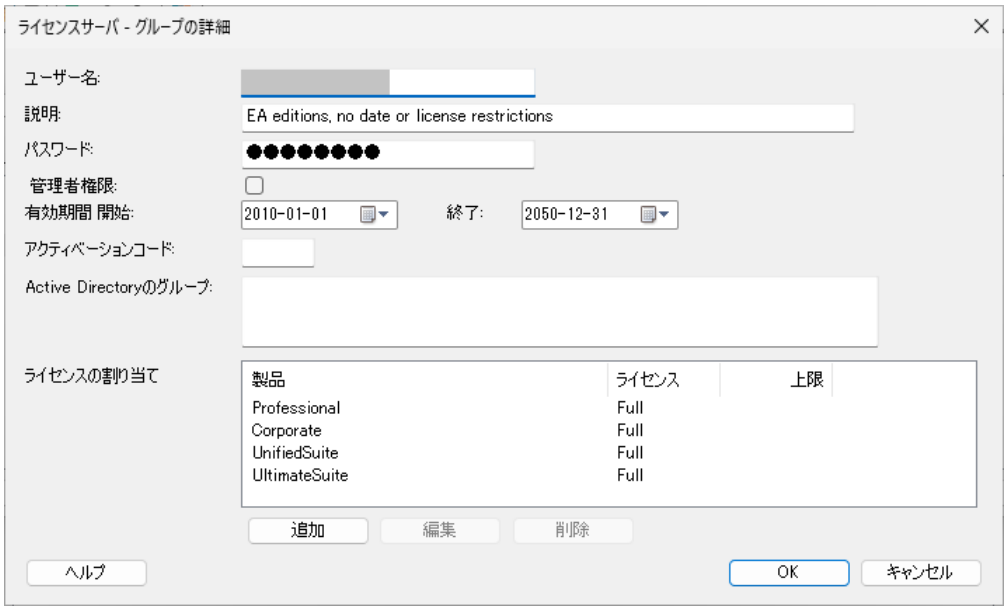
以下に「管理者向け」「クライアント向け」のグループの設定例を示します（事前設定のグループで確認できます）。尚、グループを編集したあとに Windows サービスを再起動する必要ありません。」

管理者向け（ライセンスマネージャー用）

※「管理者権限」を設定しているグループは、Enterprise Architect からライセンスを取得することはできません。また、ライセンスサーバと異なるマシンから「管理者権限」を設定しているグループを利用する場合、ライセンスサーバの White List に登録が必要です。詳細については、2.10.7 章をご覧ください。

Copyright (c) 2022-2025 Sparx Systems Japan

クライアント向け（ライセンス取得用）



項目	説明
ユーザー名	対象となるグループ名です。Enterprise Architect でライセンス取得する場合に利用します。
説明	対象グループの説明文です。
パスワード	対象グループのパスワードです。Enterprise Architect でライセンスを取得する場合に利用します。入力内容は暗号化して設定ファイルに保存されます。そのため、設定ファイルを直接編集してパスワードを確認あるいは設定することはできません。
管理者権限	チェックを入れるとライセンスマネージャーを利用することができます。ただし、ライセンス管理専用のため、Enterprise Architect **でライセンスを取得することはできません。**また、ライセンスサーバと異なるマシンから「管理者権限」を設定しているグループを利用する場合、ライセンスサーバの White List に登録が必要です。詳細については、2.10.7 章をご覧ください。
有効期間	対象グループがライセンスを取得できる期間を指定します。期間を超えるとライセンスを取得できなくなります。開始日・終了日は必須です。もし、終了日なしとしたい場合は、遠い将来の日付を指定してください。
アクティベーションコード	設定すると Enterprise Architect を起動したときに、アクティベーションコードの入力を省略することができます。アクティベーションコードについては、下記ヘルプをご覧ください。 https://www.sparxsystems.jp/help/17.0/version_activation.html ※この機能は Enterprise Architect バージョン 15.2 以降で動作します。
Active Directory のグループ	対象のグループを Active Directory のグループと結びつけることができます。設定方法については、後述をご覧ください。
ライセンスの割り当て	対象グループが利用できるライセンスを表示します。設定方法については、後述をご覧ください。

Copyright (c) 2022-2025 Sparx Systems Japan

✓ Active Directory のグループ

対象のグループを、Active Directory のグループと結びつけることができます。結びつけるグループ名は完全な形式で指定しなければなりません。複数の Active Directory のグループと結びつける場合には、カンマ区切りで指定してください。以下は指定例です。
WinNT://MYDOMAIN/Sparx Users,WinNT://MYDOMAIN/EA Users,WinNT://CUSTOMER DOMAIN/Sparx Users

※本項目をご利用になる場合は、ライセンスサーバの動作確認のため、一旦、本項目を未設定の状態で、3 章にてクライアントからライセンス取得できるかどうかご確認ください。正常にライセンスを取得できましたら、本項目を設定の上、改めてライセンス取得できるかどうかご確認ください。

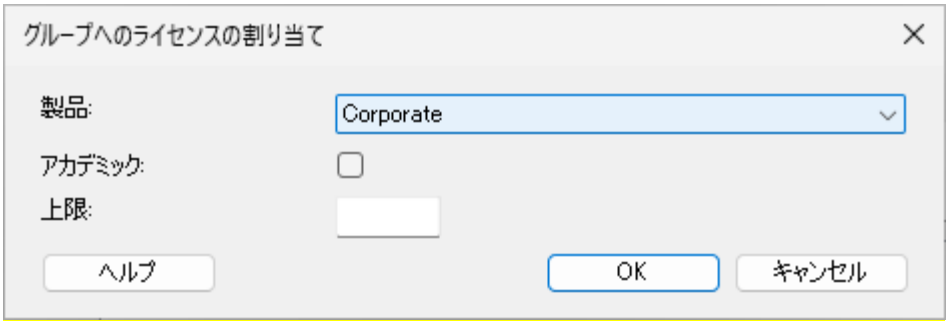
尚、Active Directory のグループと結びつける場合、ライセンスサーバマシンは Active Directory に含まれるマシンでなければなりません。また、本項目で指定した Active Directory のグループは、ライセンスサーバマシンから参照可能なグループでなければなりません。

また、対象のユーザーが複数の Active Directory のグループに所属する場合には、それぞれのグループの設定の合計（和）が利用可能な設定となります。

Copyright (c) 2022-2025 Sparx Systems Japan

✓ ライセンスの割り当て

グループに対してライセンスの割り当てをしたい場合は、上記画面で「追加」あるいは「編集」をクリックします。以下のような画面が表示されます。



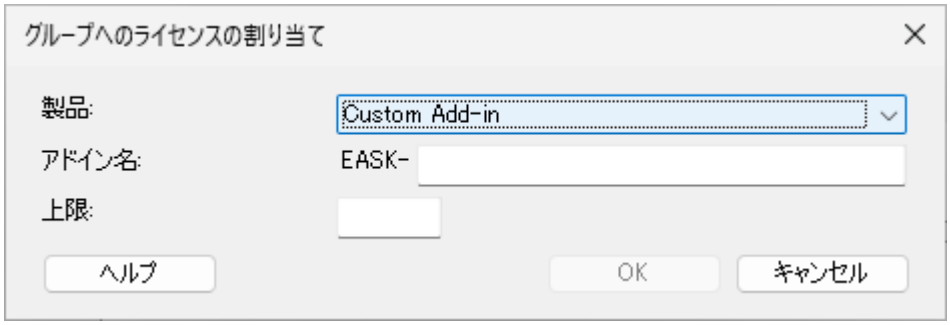
グループに割り当てる「製品」を選択します。必要に応じて、「アカデミック」「上限」を設定し、「OK」をクリックします。グループに対して複数の製品を割り当てる場合は、製品ごとにこの操作を行ないます。

項目	説明	
製品	製品を指定します。主な製品は以下の通りです。	
	表示の製品名	日本における製品名
	UltimateSuite	アルティメット版
	UnifiedSuite	ユニファイド版 （旧ビジネスモデリング版、旧システムエンジニアリング版）
	Corporate	コーポレート版
	Professional	プロフェッショナル版
	RaQuest	RaQuest
アカデミック	アカデミックライセンスを利用するときに設定します。	
上限	利用可能な最大本数を指定します。ここで本数を指定しても、利用可能なライセンスキーが存在しない場合には利用できません。指定しない場合には、ライセンスキーが存在する数だけ利用可能になります。	

Copyright (c) 2022-2025 Sparx Systems Japan

※以下の機能につきましては、現時点では正しく動作しないケースがあるため、サポート対象外となります。以下の機能が必要な場合は、旧ライセンスサーバ（SSKS 形式）の使用をご検討ください。

「製品」欄に存在しない製品・アドインで、ライセンスキーが EASK-で始まるものは、以下の画面のように「製品」欄で「Custom Add-in」を指定し、「アドイン名」に「EASK-」の後ろの文字列を入力してください。



・Enterprise Architect – Redmine 連携アドインであれば、「EASK-EAC_REDMINE」の赤字部分を入力します。
・「EA_AddinLicenseValidate」メソッドを利用して実装されている製品・アドインであれば、当該メソッドで渡す製品・アドインの名前を示す文字列を入力します。

Copyright (c) 2022-2025 Sparx Systems Japan

3　クライアントの設定

クライアントマシンで Enterprise Architect を利用できるように設定を行ないます。まず、クライアントマシンに Enterprise Architect をインストールしてください。

次に、2.5.2.2(2)章でルート証明書も作成した場合は 3.1 章に、それ以外の場合は 3.2 章に、それぞれ進んでください。尚、この設定は、ログインユーザごとに行なう必要があります。

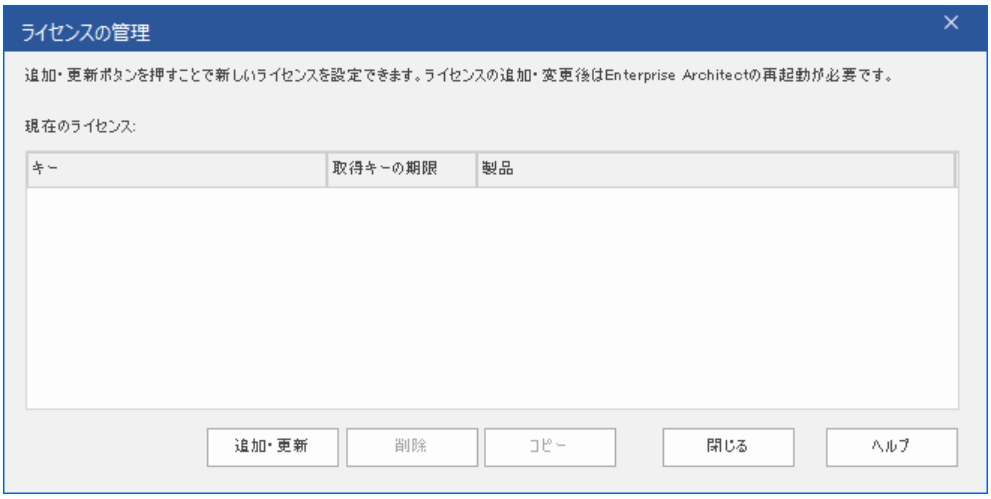
3.1　ルート証明書のインポート

2.5.2.2(2)章でルート証明書を作成した場合には、クライアントマシンにルート証明書をインポートする必要があります。2.8 章に沿ってルート証明書をインポートしてください。1 台のマシンを複数のログインユーザで利用している場合は、ログインユーザごとに証明書のインポートが必要となります。(2.8 章の「証明書のインポート ウィザードの開始」画面で、「ローカル コンピューター」を選択した場合には、1 台のマシンに対して証明書のインポートは 1 回で済みます。ただし、証明書のインポートには管理者権限が必要です。)

3.2　ライセンスの設定

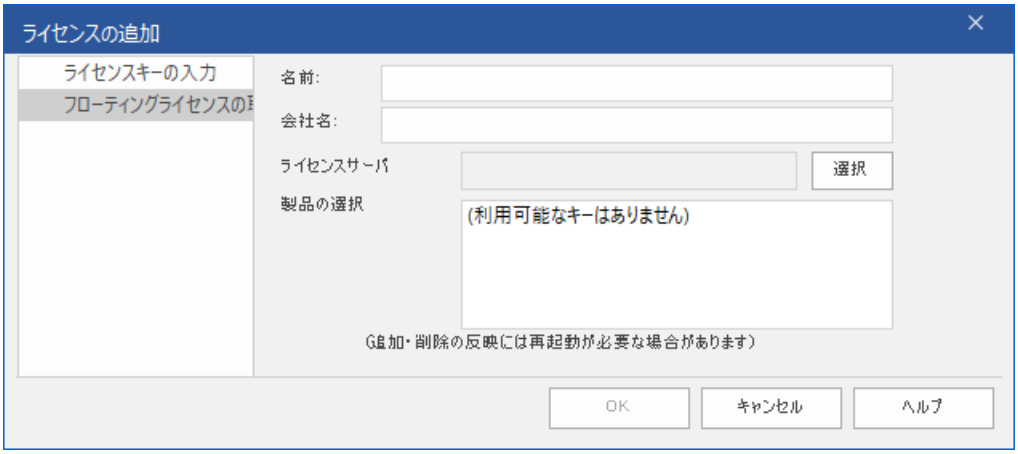
ライセンスを取得するための設定をします。Enterprise Architect を最初に起動したときには、下記画面を表示されます。下記画面が表示されずに Enterprise Architect が起動する場合には、「ホーム」リボン ＞ ヘルプ ＞ ライセンスの管理 で表示してください。

※既にスタンダードライセンスを利用していて、フローティングライセンスに変更する場合は、下記画面でスタンダードライセンスのキーを選択して「削除」してください。

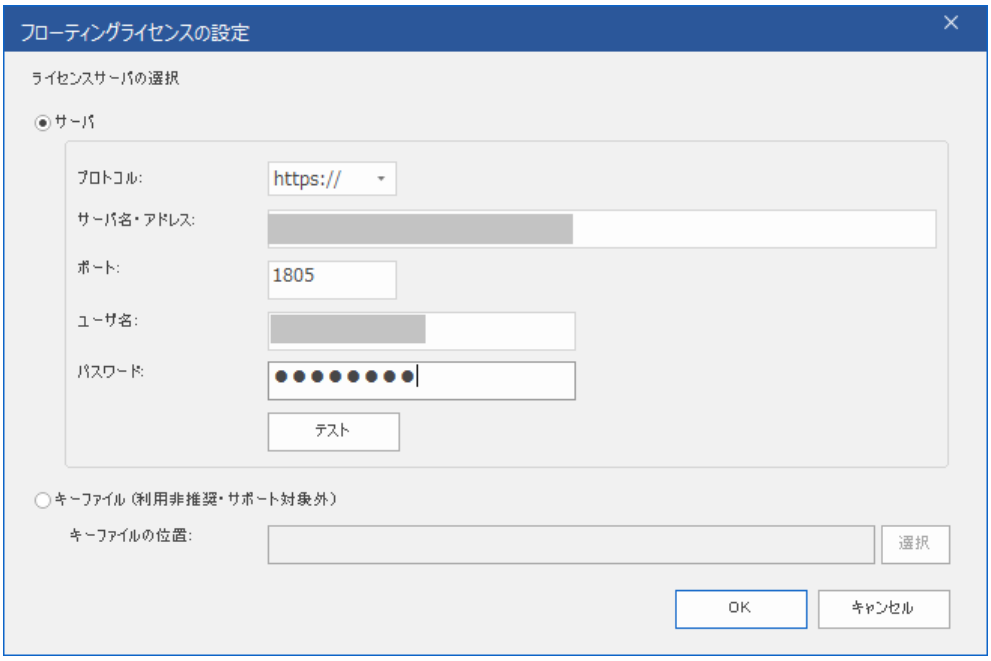


「追加・更新」をクリックします。

Copyright (c) 2022-2025 Sparx Systems Japan



「フローティングライセンスの取得」グループを選択し、「ライセンスサーバ」の入力欄の右にある「選択」をクリックします。



上記画面で以下のように入力します。

項目	入力内容　※すべて必須
ライセンスサーバの選択	「サーバ」を選択
プロトコル	「https://」を選択
サーバ名・アドレス	解決可能な名前あるいは IP アドレス（例：example.com, 10.0.0.1）
ポート	2.3 章で設定したポート番号（既定値：1805）
ユーザ名	※
パスワード	※

※以下いずれかを入力します。**管理者用のグループでは接続できません。**

- ✓ インストール時にサンプルとして事前設定されているグループうち、「クライアント用のサンプル」（https://www.sparxsystems.jp/help/17.0/pcs_fls_default_pwds.html）
- ✓ 2.11 章で設定したグループ定義の内容

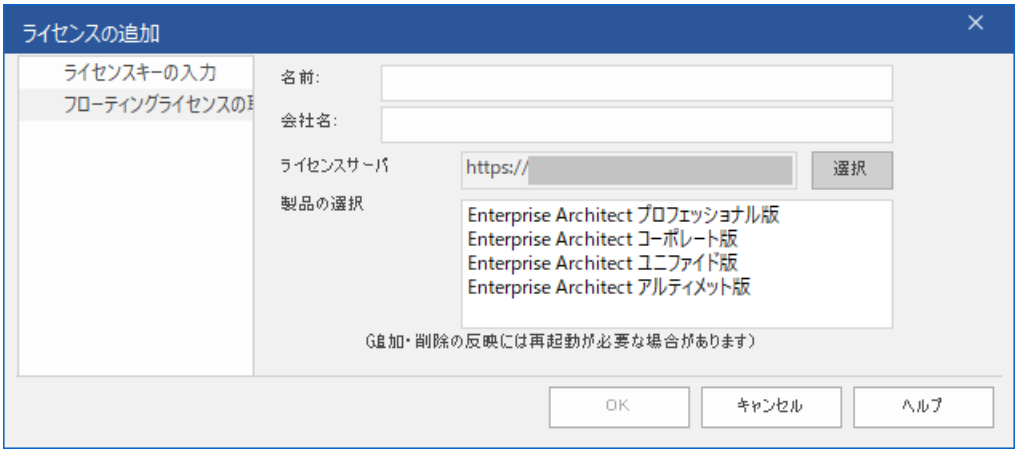
Copyright (c) 2022-2025 Sparx Systems Japan

上記の選択あるいは入力ができましたら、「テスト」をクリックしてライセンスサーバに接続できることを確認してください。
※フローティングライセンスをお持ちではなく、フローティングライセンスの事前動作確認を実施している場合は、以上で確認終了となります。「テスト」でライセンスサーバに接続できれば、フローティングライセンスをご利用いただけます。

正常に接続できましたら、「OK」をクリックします。
もし、セキュリティの警告画面が表示される場合には、8.4 章をご確認ください。

尚、同時に利用できるライセンスサーバは 1 つのみです。複数のライセンスサーバを同時に利用することはできません。例えば、ライセンスサーバ A から Enterprise Architect のキーを取得し、同時にライセンスサーバ B から RaQuest のキーを取得するようなことはできません。このような場合、どちらかのライセンスサーバにライセンスキーを移動し、1 つのライセンスサーバから 2 つの製品のライセンスキーを取得する必要があります。

ライセンスサーバに接続できると下記画面のようにライセンスを取得可能な製品名が表示されますので、選択して「OK」をクリックします。



次回起動以降は自動的に設定した内容でライセンスを取得します。複数のライセンスを取得する場合には、再度「追加・更新」をクリックして他のライセンスを取得してください。

初回設定時以外は、設定の反映には Enterprise Architect の再起動が必要です。Enterprise Architect を一度終了させ、再起動してください。指定したライセンスを自動で取得し起動します。

ライセンスを取得できない場合には、8.2 章のトラブルシューティングをご確認ください。

Copyright (c) 2022-2025 Sparx Systems Japan

3.3　ライセンス設定に関する補足情報

3.3.1　設定後の動作について

設定を行うと、次回以降の起動時に自動的にライセンスキーを取得します。もし、この段階でライセンスキーが取得できない場合には、エラーが表示され、起動できません。

ライセンスマネージャーからは、どのマシンの、どのユーザーが、どのライセンスキーを、利用しているかがわかります。また、ログで、いつ、どのマシンの、どのユーザーが、どのライセンスキーを、取得したか（あるいは解放したか）を確認できます。ライセンスキーが足りずにエラーになった場合についてもログに記録されます。（ログとして記録される内容は、ログ出力のレベルに依存します。既定値は INFO で、ライセンスキーの取得・解放・不足エラーを確認することができます。レベル変更は 5.2 章をご覧ください。）

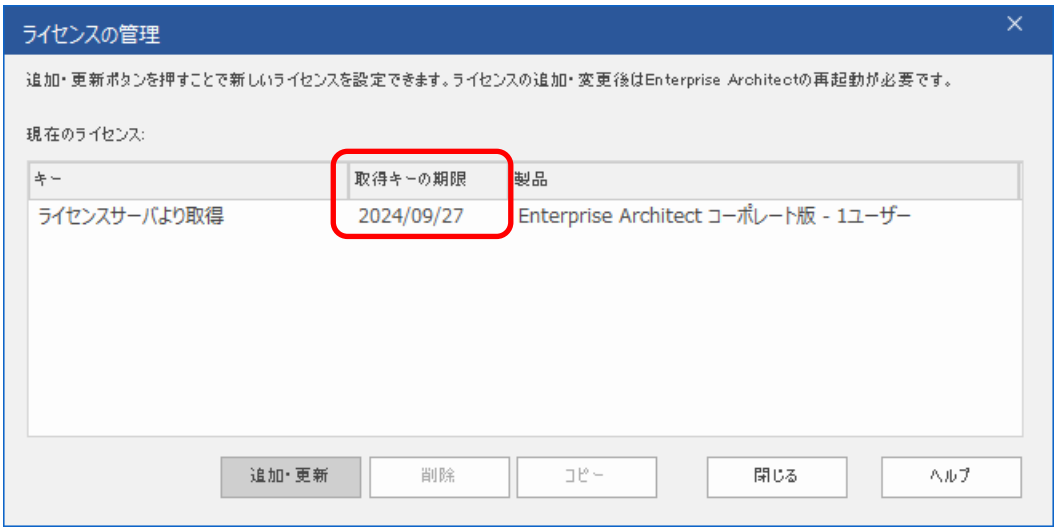
3.3.2　複数の製品を取得する設定にした場合の動作

Enterprise Architect で複数の製品のライセンスを取得する設定にした場合には、Enterprise Architect を起動すると、起動した段階で設定されているすべての製品のライセンスを取得します。実際に設定した機能やソフトウェアが利用されるタイミングで取得されるわけではありませんのでご注意ください。
（例: Enterprise Architect の他に、RaQuest のライセンスを取得する設定にしている場合、Enterprise Architect を起動すると、2 製品すべてのライセンスを取得します。RaQuest の機能を使う段階になってから確保するわけではありません。例えば、RaQuest を利用していなくても、RaQuest のライセンスを取得する設定にしていると Enterprise Architect の起動時に RaQuest のライセンスも取得します。）

3.3.3　「取得キーの期限」について

「ライセンスの管理」画面に表示される「取得キーの期限」は、製品の使用期限やサポート期間を表すものではありません。ライセンスサーバから取得したライセンスの使用可能期間で、ライセンスサーバからライセンスを再取得すると更新されます。（Enterprise Architect を終了して再度起動すると再取得できます。）

Copyright (c) 2022-2025 Sparx Systems Japan



尚、Enterprise Architect の製品自体には使用期限はなく、継続して利用することができます。（一定期間後に利用できなくなる製品ではありません。）下記 FAQ もご確認ください。

〇ライセンスの有効期限はありますか？
https://www.sparxsystems.jp/faq/faq_buy_lic.htm#lic03

3.3.4　複数のエディションのライセンスを登録した場合の動作

ライセンスサーバには、Enterprise Architect の複数のエディションのライセンスを登録することもできます。例えば、コーポレート版とアルティメット版のライセンスを登録することができます。このような場合には、それぞれの利用者がどちらのエディションを利用するか、選択する必要があります。

エディションを選択すると、その選択したエディションを常に利用します。選択したエディションのライセンスが全て利用中の場合にはエラーになります。他のエディションを自動的に利用する機能はありません。例えば、コーポレート版を利用する設定にした場合には、アルティメット版など他のエディションが利用可能な場合でも、コーポレート版のライセンスに空きがない場合には、エラーになります。

ライセンスの取得でエラーになると、利用者は他のエディションを選択して取得・利用することができます。上記の例では、コーポレート版が利用できない場合に、手動でアルティメット版を選択し利用することができます。こうして手動で異なるエディションを選択した後は、常にアルティメット版を取得し利用するようになります。以前に利用していたエディション（この例ではコーポレート版）のライセンスに空きがある場合でも、元のエディションを自動的に取得するように設定を戻す機能はありません。

指定したエディションが利用できない場合に、他のエディションを利用できないようにしたい場合や利用できるライセンス数を制限したい場合には、2.11 章のグループで定義する必要があります。

Copyright (c) 2022-2025 Sparx Systems Japan

4　設定ファイル

ライセンスサーバの動作設定は、サービスの実行ファイルがインストールされる位置にある SSProCloud.config を参照しています。このファイルには、さまざまな設定の項目が含まれていますが、ライセンスサーバに関係する項目のみを以下に示します。説明欄に「Pro クラウドサーバ 設定ツール」での変更に関する記述がない項目については、ファイルを直接編集する必要があります。ファイルを直接編集した場合は、Windows サービスを再起動する必要があります。尚、ファイルを直接編集する場合は、念の為、編集前に SSProCloud.config のバックアップを取ってください。

項目	説明
SERVER_PORT	「Pro クラウドサーバ 設定ツール」が通信するポートです。既定値は 1803 です。
ADMIN_WHITE_LIST	「ライセンスマネージャー」、「Pro クラウドサーバ 設定ツール」でライセンスサーバに接続可能なマシンの IP アドレスです。既定値（127.0.0.1|::1）では、ライセンスサーバマシン自身のみとなっています。 ※「Pro クラウドサーバ 設定ツール」で変更可
SERVER_PASSWORD	「Pro クラウドサーバ 設定ツール」のログオンで必要なパスワードです。（暗号化されています） ※「Pro クラウドサーバ 設定ツール」でのみ変更可
TEMP_DIRECTORY	Pro クラウドサーバ作業用に利用するファイルを配置する一時フォルダです。既定値は、サービスの実行ファイルがインストールされる位置の Temp フォルダになっています。（C:¥Program Files¥SparxSystems Japan¥Pro Cloud Server¥Service¥Temp）
LOGGING_LEVEL	出力するログの内容として、以下のいずれかを指定します。 ・OFF – ログを出力しません。 ・FATAL – 致命的なエラーのみを出力します。 ・WARNING – 警告も出力します。 ・INFO（既定値）– 正常に処理が行われたことを示すメッセージも出力します。 ・SYSTEM – INFO より詳細な内容も出力します。 ・DEBUG – 問題発生時の調査用です。 ・TRACE – 内部の動作処理の情報も出力します。開発用です。 ログレベルは、下位の内容を含みます。例えば、INFO を指定した場合には、WARNING および FATAL の内容も含みます。 通常は INFO（既定値）あるいは SYSTEM を設定してください。ライセンスサーバ機能に関するログは、SYSTEM の設定でほぼ取得できます。DEBUG、TR

Copyright (c) 2022-2025 Sparx Systems Japan

項目	説明
	ACE は、Pro クラウトサーバの性能が劣化しますので通常利用は想定しておりません。 ※「Pro クラウドサーバ 設定ツール」で変更可
LOGGING_DIRECTORY	ログファイルを出力する位置を指定します。既定値は、サービスの実行ファイルがインストールされる位置の Logs フォルダになっています。(C:¥Program Files¥SparxSystems Japan¥Pro Cloud Server¥Service¥Logs) **注意：** サービスの起動時には、指定したフォルダが必ず存在する必要があります。 **注意：** サービスを実行する Windows のユーザーは、指定したフォルダに対して読み書きのアクセス権が必要です。
LOGGING_FILECOUNT	ログファイルを作成する個数を指定します。指定した数だけ、ログファイルを保存します。指定した数を超えた場合、一番古いログファイルを削除します。既定値は 3 です。
LOGGING_FILESIZE	ログファイルの最大サイズをバイト単位で指定します。指定したサイズを超える場合には、現在のログファイルを「SSProCloudServerLog-2.log」として待避し、新たに「SSProCloudServerLog-1.log」ファイルを作成して記録を続けます。既定値は 1048576 です。 （同時に、LOG_FILECOUNT の指定に応じて、既存のファイルの末尾の数字を 1 増やします。LOG_FILECOUNT の指定数を超えるファイルは削除されます。）
FLOATLIC_PATH	ライセンスキーの情報を暗号化して格納するキーファイルの位置を指定します。既定値は、サービスの実行ファイルがインストールされる位置の sskeys.dat ファイルになっています。(C:¥Program Files¥SparxSystems Japan¥Pro Cloud Server¥Service¥sskeys.dat) 存在しないファイルをキーファイルとして指定した場合、サービス起動時に作成されます。 **注意：** サービスを実行する Windows ユーザーは、本項目で指定したファイルに対して読み書きのアクセス権が必要です。尚、ユーザーを LOCALSYSTEM と指定している場合には、インストールフォルダに対する読み書きのアクセス権は既定の状態で有効になっています。
FLOATLIC_CONFIG	ライセンスサーバのグループの定義ファイルの位置を指定します。既定値は、サービスの実行ファイルがインストールされる位置の ssflsgroups.config ファイルになっています。(C:¥Program Files¥SparxSystems Japan¥Pro Cloud Server¥Service¥ssflsgroups.config)

Copyright (c) 2022-2025 Sparx Systems Japan

項目	説明
	グループの定義については、2.11 章をご覧ください。
# Port Definition 2 (SERVER_PORT=1805)	事前設定されている HTTPS 通信を行なうポートです（フローティングライセンスの取得・解放で利用します）。既定値は 1805 です。 ※「Pro クラウドサーバ 設定ツール」で変更可

その他、Windows のサービスとして設定できる項目（起動や実行する Windows ユーザー）などは、Windows の設定から変更してください。

Copyright (c) 2022-2025 Sparx Systems Japan

5　ログファイル

5.1　概要

設定したログレベルの内容（5.2 章を参照）に応じて、ログファイルが出力されます。最新のログファイルのファイル名は「SSProCloudServerLog-1.log」となります。出力例は次の通りです。

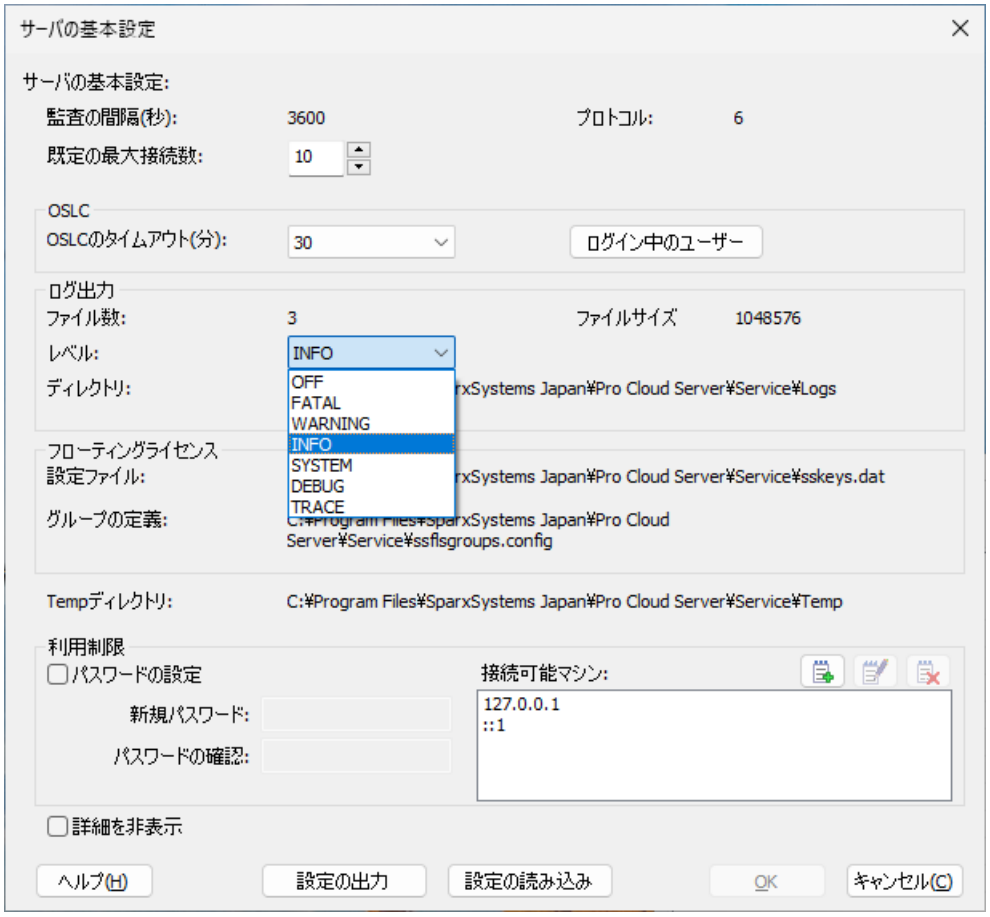
```
2024-09-26 09:45:53 [INFO]:    ##############################################################################################
2024-09-26 09:45:53 [INFO]:    #                                  Sparx Systems Pro Cloud Server                            #
2024-09-26 09:45:53 [INFO]:    ##############################################################################################
2024-09-26 09:45:53 [INFO]:    # Versions                                                                                  #
2024-09-26 09:45:53 [INFO]:    #   Cloud      : 6.00.0163                                                                  #
2024-09-26 09:45:53 [INFO]:    #   Protocol   : 6.0                                                                         #
2024-09-26 09:45:53 [INFO]:    #   OS         : Windows Desktop (0x30) 10.00.22631                                          #
2024-09-26 09:45:53 [INFO]:    #                                                                                             #
2024-09-26 09:45:53 [INFO]:    # Architecture : 64 bit                                                                       #
2024-09-26 09:45:53 [INFO]:    #                                                                                             #
2024-09-26 09:45:53 [INFO]:    # Start Time   : 2024-09-26 09:45:53                                                          #
2024-09-26 09:45:53 [INFO]:    #                                                                                             #
2024-09-26 09:45:53 [INFO]:    # Folders                                                                                     #
2024-09-26 09:45:53 [INFO]:    #   Service    : C:¥Program Files¥SparxSystems Japan¥Pro Cloud Server¥Service                 #
2024-09-26 09:45:53 [INFO]:    #   Logging    : C:¥Program Files¥SparxSystems Japan¥Pro Cloud Server¥Service¥Logs            #
2024-09-26 09:45:53 [INFO]:    #   Temp       : C:¥Program Files¥SparxSystems Japan¥Pro Cloud Server¥Service¥Temp            #
2024-09-26 09:45:53 [INFO]:    #                                                                                             #
2024-09-26 09:45:53 [INFO]:    # Cloud License                                                                               #
2024-09-26 09:45:53 [INFO]:    #   Path       : C:¥Program Files¥SparxSystems Japan¥Pro Cloud Server¥Service¥Licenses¥       #
2024-09-26 09:45:53 [WARNING]: #   Error      : Failed to find any license certificate (*.crt) files                        #
2024-09-26 09:45:53 [INFO]:    #   Edition    : Free                                                                        #
2024-09-26 09:45:53 [INFO]:    #                                                                                             #
2024-09-26 09:45:53 [INFO]:    # Floating License Server                                                                     #
2024-09-26 09:45:53 [INFO]:    #   Store      : C:¥Program Files¥SparxSystems Japan¥Pro Cloud Server¥Service¥sskeys.dat     #
2024-09-26 09:45:53 [INFO]:    #   Group      : C:¥Program Files¥SparxSystems Japan¥Pro Cloud Server¥Service¥ssflsgroups.config #
2024-09-26 09:45:53 [INFO]:    #                                                                                             #
2024-09-26 09:45:53 [INFO]:    #                                                                                             #
2024-09-26 09:45:53 [INFO]:    #   Log Level  : SYSTEM                                                                       #
2024-09-26 09:45:53 [INFO]:    #                                                                                             #
2024-09-26 09:45:53 [INFO]:    ##############################################################################################
2024-09-26 09:45:53 [INFO]: ** Starting up!
2024-09-26 09:45:53 [WARNING]: Failed load the Database Managers from Registry Hive: Software¥Sparx Systems¥PCS¥DBManagers¥
2024-09-26 09:45:53 [SYSTEM]:  SUCCESS Management thread started
2024-09-26 09:45:53 [SYSTEM]:  SUCCESS Started Floating License Server
2024-09-26 09:45:53 [INFO]:    Loading Floating License Group File.
2024-09-26 09:45:53 [SYSTEM]:  ATTEMPT Loading Floating License groups from C:¥Program Files¥SparxSystems Japan¥Pro Cloud Server¥Service¥ssflsgroups.config
2024-09-26 09:45:53 [SYSTEM]:  SUCCESS Floating License group file: Configured 7 group(s)
2024-09-26 09:45:53 [INFO]:    SUCCESS Bound and listening on port 1803
2024-09-26 09:45:53 [SYSTEM]:  SUCCESS Socket acceptor thread started
2024-09-26 09:45:53 [INFO]:  ** Now listening for connections
2024-09-26 09:45:53 [INFO]:    Thread 5  SUCCESS Bound and listening on soap port 1804 (http)
2024-09-26 09:45:53 [INFO]:    Thread 6  SUCCESS Bound and listening on soap port 1805 (https)
2024-09-26 09:46:01 [SYSTEM]:  127.0.0.1 SESSION_AUTHENTICATE_MANAGEMENT OK. Now authorised for management operations.
2024-09-26 09:46:01 [SYSTEM]:  Thread 7    127.0.0.1 MANAGEMENT_SERVER_GETINFO OK.
2024-09-26 09:46:01 [SYSTEM]:  127.0.0.1 MANAGEMENT_DBMANAGER_LIST OK.
2024-09-26 09:46:01 [SYSTEM]:  127.0.0.1 MANAGEMENT_SOAPPORTS_LIST completed successful.
2024-09-26 09:46:01 [SYSTEM]:  127.0.0.1 MANAGEMENT_DBMANAGER_LIST OK.
2024-09-26 09:46:01 [SYSTEM]:  127.0.0.1 MANAGEMENT_SBPICONFIG_GETINFO completed successful.
2024-09-26 09:46:01 [SYSTEM]:  127.0.0.1 MANAGEMENT_SOAPPORTS_LIST completed successful.
2024-09-26 09:46:03 [SYSTEM]:  Thread 7    127.0.0.1 MANAGEMENT_SERVER_GETINFO OK.
2024-09-26 09:47:17 [INFO]:    FLS - ADD SUCCESS, group=[redacted] key=[redacted] product=EA Professional Edition
2024-09-26 09:47:28 [INFO]: FLS - CHECKOUT SUCCESS, group=[redacted] key=[redacted] product=EA Corporate Edition user=[redacted], 2024-09-27 09:47:28
2024-09-26 09:47:37 [INFO]: FLS - CHECKIN SUCCESS, group=[redacted] key=[redacted] product=EA Corporate Edition
```

このログの解析機能・解析ツール・可視化ツールに関して、スパークスシステムズ ジャパンから提供している情報については 9.2 章をご覧ください。それぞれのお客様ごとに、必要に応じてログファイルの内容を整形・解析するツールを作成することも可能です。

5.2　ログレベルの設定

ログレベルの設定は、「Pro クラウドサーバ 設定ツール」を起動し、「サーバの基本設定」をクリックして表示される以下の画面で行ないます。既定値は INFO です。

Copyright (c) 2022-2025 Sparx Systems Japan



通常は INFO（既定値）あるいは SYSTEM を設定してください。ライセンスサーバ機能に関するログは、SYSTEM の設定でほぼ取得できます。DEBUG（調査用）、TRACE（開発用）は、Pro クラウトサーバの性能が劣化しますので常時利用は想定しておりません。

5.3　ログの内容

5.3.1　ライセンスの取得・解放についての情報

ライセンスの取得や解放などについてのログを出力する場合には、ログレベルが INFO の情報が必要です。ライセンス取得（チェックアウト）の場合、ログは次のようになります。

2024-09-25 13:57:29 [INFO]: FLS - CHECKOUT SUCCESS, group=[group] key=[key] product=[edition] user=[userInfo], 2024-09-26 13:57:29

項目	説明
[group]	グループ定義のユーザー名
[key]	フローティングライセンスのキー
[edition]	フローティングライセンスの種類
[userInfo]	利用者のマシン名と Windows ユーザー名

Copyright (c) 2022-2025 Sparx Systems Japan

ライセンスの取得失敗時のログは次のようになります。

2024-09-25 16:25:47 [INFO]: FLS - CHECKOUT FAIL, group=[group] product=[edition], user=[userInfo], Error: [errorInfo]

項目	説明
[errorInfo]	エラーの内容（5.3.2.2 章を参照）

ライセンスの解放（チェックイン）の場合のログは次のようになります。

2024-09-25 13:57:51 [INFO]: FLS - CHECKIN SUCCESS, group=[group] key=[key] product=[edition]

尚、Enterprise Architect 終了時にライセンスを解放しない設定になっている場合、以下となります。
・Enterprise Architect を終了しても、この CHECKIN のログは出力されません。チェックインせずに継続利用している扱いになります。（この場合、利用中のライセンスの期限が到達したタイミングでも、ログ出力は行われません。ただし、ライセンスマネージャーの画面では「キーの数」が、「利用中」から「期限切れ・利用可能」に移行した数値となります。）
・Enterprise Architect の「ライセンスの管理」画面で明示的にライセンスを解放すると、この CHECKIN のログが出力されます。

このログで表示される内容とその意味は次の通りです。
・CHECKOUT SUCCESS: チェックアウト（ライセンスキーの取得処理）の成功
・CHECKIN SUCCESS: チェックイン（ライセンスキーの解放処理）の成功
・CHECKOUT FAIL: チェックアウト（ライセンスキーの取得処理）の失敗
・REASSERT EXTEND: すでにライセンスキーを取得しているマシンからのチェックアウトの通信で、利用中のライセンスキーと同じライセンスキーを継続利用する場合
・REASSERT REPLACE: すでにライセンスキーを取得しているマシンからのチェックアウトの通信で、利用中のライセンスキーとは異なるライセンスキーを利用する場合

5.3.2 エラーについての情報

サーバ自身が正常に動作しない場合、ログファイルの内容も参考になります。動作の内容を解析するためには、ログレベルを SYSTEM に設定してください。問題解決に必要な情報が含まれている場合があります。この章では、ログファイルに出力される内容とその原因と対策を説明します。

動作の内容が不明な場合には、可能であればログファイルもサポート宛にご送付ください。

Copyright (c) 2022-2025 Sparx Systems Japan

5.3.2.1 初期化の失敗に関係するログ

表示されるエラー	原因・対策
Unable to create secure server on soap port [PortNo]. Keyfile not found at C:¥Program Files¥SparxSystems Japan¥Pro Cloud Server¥Service¥server.pem	ポート番号[PortNo]で HTTPS 通信を利用可能にできませんでした。server.pem で秘密鍵ファイルが見つかりませんでした。 server.pem を正しく作成できているかどうか、所定の場所に server.pem を配置して Windows サービスを再起動しているかどうか、を確認してください。（2.5～2.6 章を参照）
Unable to create secure server on soap port [PortNo] (https).	ポート番号[PortNo]で HTTPS 通信を利用可能にできませんでした。 server.pem を正しく作成できていない可能性があります。2.5.1 章もしくは 2.5.2 章で作成している場合は、再度確認をしてください。確認しても解決できない場合は、原因の切り分けのため、2.5.3 章の server.pem での動作確認を検討してください。
Floating License Error: Checkout failed, could not read KeyStore.	キーファイルを読み込めませんでした。 キーファイルが読み取り専用になっていないかどうか、キーファイルへのアクセス権があるかどうか、を確認してください。 問題がない場合は、キーファイルが破損している可能性があります。ライセンスキーが手元にあることを確認した上で、キーファイル sskeys.dat を削除して、Windows サービスを再起動してください。 （キーファイルの既定の配置場所は、C:¥Program Files¥Sparx Systems¥Pro Cloud Server¥Service です。） 再起動後、ライセンスマネージャーでライセンスサーバに接続できるかどうか確認してください。接続できましたら、ライセンスキーを追加してください。 ※sskeys.dat を削除するとライセンスサーバに登録されているライセンスキーは削除され、再度追加する必要がありますのでご注意ください。
Could not open Floating License Server at [FilePath]. The file does not exist and could not be created.	[FilePath]のキーファイルを開くことができませんでした。 キーファイルがあるフォルダへのアクセス権があるかどうか確認してください。
Invalid or missing keystore file - Keystore file cannot be opened by this version of the service or the file has been corrupted.	KEYSTORE_PATH で指定されたキーファイルのバージョンが適切でないか、何らかの原因により内容が壊れています。

Copyright (c) 2022-2025 Sparx Systems Japan

表示されるエラー	原因・対策
	KEYSTORE_PATH の位置のキーファイルを、最新のライセンスマネージャーを利用して再作成してください。
Key file has been moved.	KEYSTORE_PATH で指定されたキーファイルは、他のマシンで作成されたものである可能性があります。キーファイルは、配置する位置に直接作成しなければなりません。 キーファイルを移動してしまった場合、元のマシンのもとの位置に戻せば、その位置では使えるようになります。尚、RAID 環境では、移動していなくても移動したと判定される場合があります。RAID 環境ではない位置にキーファイルを作成してください。

5.3.2.2 ライセンス取得時の問題に関するログ

表示されるエラー	原因・対策
All keys for this Product have been checked out to other users.	ライセンスキーは全て利用中で、利用可能なライセンスキーがありません。 このエラーがたびたび発生する場合には、利用方法を制限するか、ライセンスキーを追加購入する必要があります。 ライセンスの割り当て状況は、ライセンスマネージャーで確認できます。(2.10.1 章を参照)
There are no available keys for this Product in the Keystore.	要求した種類のライセンスキーがありません。 このエラーは、過去に登録されていたライセンスキーが削除されていたなどでライセンスキーが取得できない場合に表示されます。問題となっている製品をアンインストールし、Enterprise Architect の設定で該当のライセンスキーを取得しないように設定してください。 ライセンスサーバに登録されているライセンスのキーと種類は、ライセンスマネージャーで確認できます。(2.10.1 章を参照)

5.3.2.3 ライセンス解放時の問題に関するログ

表示されるエラー	原因・対策
Key not found in keystore.	取得中の種類のライセンスがキーファイル内にありません。利用中にキーファイルからライセンスキーが削除されたか、ライセンスを取得中にライセンスサーバの設定を変更した可能性がありま

Copyright (c) 2022-2025 Sparx Systems Japan

表示されるエラー	原因・対策
	す。 ライセンスを取得したライセンスサーバに接続しているかどうか確認してください。

5.3.2.4 認証の問題に関係するログ – パスワードの場合

表示されるエラー	原因・対策
Authentication failed. Invalid password provided for account [User Name].	[User Name]用に指定されたパスワードが間違っています。 パスワードを正しく入力しているかどうか確認してください。大文字小文字は区別されます。
Authentication failed. Account [User Name] not currently valid.	[User Name]は現在有効ではありません。 当該ユーザーの有効期間が終了していないかどうか、あるいは何らかの設定変更をしていないかどうか確認してください。(2.11 章を参照)
Request denied for admin resource /keystore/count/ from [IP address].	[IP address]から管理者用リソースへの要求が拒否されました。 もし、ライセンスマネージャーで自身と異なるマシンのライセンスサーバにアクセスしている場合には、White List への追加が必要です。(2.10.7 章を参照)
The current client address is not authorized to manage the Pro Cloud Server.	このクライアントアドレスは、Pro クラウドサーバを管理する権限がありません。 「Pro クラウドサーバ 設定ツール」で自身と異なるマシンのライセンスサーバにアクセスする場合には、White List への追加が必要です。 (2.10.7 章を参照) ※当該章はライセンスマネージャーに関する内容ですが、White List への追加方法は共通です。

5.3.2.5 認証の問題に関係するログ – Active Directoryを利用している場合

表示されるエラー	原因・対策
Could not get DefaultNamingContext.	Active Directory の認証モジュールの初期化に失敗しました。現在のドメインの既定の名前コンテキストの取得に失敗しました。 ライセンスサーバマシンが Active Directory のドメインに接続可能かどうか確認してください。また、Active Directory の情報を取得するために必要なアクセス権が割り当てられているかどうか確認してください。
There are no available keys for this Product in	Active Directory の認証モジュールの初期化に失

Copyright (c) 2022-2025 Sparx Systems Japan

表示されるエラー	原因・対策
the Keystore.	敗しました。ldap://rootDSE で指定されたドメインのルート DSE(DSA Specific Entry)が開けませんでした。ルート DSE エントリは Active Directory のドメインコントローラの内容と機能の情報を提供します。 ライセンスサーバマシンが Active Directory のドメインコントローラにアクセス可能かどうか確認してください。また、ドメインの Active Directory を参照するのに必要なアクセス権が設定されているかどうか確認してください。
Could not initialize the Active Directory COM interface.	Active Directory の認証モジュールの初期化に失敗しました。Active Directory の COM インターフェースの利用に失敗しました。 ライセンスサーバマシンで Active Directory の COM インターフェースの利用や通信が許可されているかどうか(適切なアクセス権があるかどうか)確認してください。
Group [Group Name] not found.	Active Directory の認証モジュールの初期化に失敗しました。2.11 章のグループの定義で指定された Active Directory のグループが見つかりません。 指定された Active Directory のグループの内容が適切に入力されているか、スペルミスなどがないかどうか確認してください。
User [User Name] is not a member of any permitted groups.	ライセンスキーを取得しようとしたユーザーは、2.11 章のグループの定義で指定された Active Directory のグループに所属していないため、キーを取得することができませんでした。 必要に応じて、2.11 章のグループの定義で Active Directory のグループを追加してください。
Account name [User Name] not found.	ライセンスキーを取得しようとしたユーザーが Active Directory 内に見つかりません。 必要に応じて、対象のユーザーがドメインユーザーになるように Active Directory の設定を行う必要があります。

Copyright (c) 2022-2025 Sparx Systems Japan

6　ライセンスキーを別のサーバに移動する方法

ライセンスキーを別のサーバに移動（ライセンスサーバを別のサーバに移行）する場合の手順は次の通りです。

1. ライセンスマネージャーで移動元の対象のライセンスキーを削除します。「ライセンスキーの一覧」で対象のライセンスキーを右クリックし、削除を実行して下さい。
2. 移動先のサーバに、Pro クラウドサーバをインストールします。2 章を参考に、適切に設定し、ライセンスサーバ機能が正しく動作することを確認してください。
3. ライセンスマネージャーで移動先のライセンスサーバを選択し、削除したライセンスキーと同じライセンスキーを追加してください。
4. 必要に応じて、各 Enterprise Architect の利用者へ、設定の変更を通知してください。（例えば、Enterprise Architect で指定するサーバ名・アドレスが変更になる場合）
5. 旧ライセンスサーバマシンにインストールされている Pro クラウドサーバについては、以下いずれかに該当するか確認してください。
   ・ライセンスサーバとして継続利用する（ライセンスキーが登録されている）
   ・ライセンスサーバ機能以外の Pro クラウドサーバの機能を利用している（利用予定である）

   該当する場合は、これで作業完了となります。

   該当しない場合は、Pro クラウドサーバをアンインストールしてください。（アンインストール対象は「Enterprise Architect Pro クラウドサーバ」です。）
   ※アンインストールすると Pro クラウドサーバのすべての機能（ライセンスサーバ機能を含む）が使えなくなりますのでご注意ください。

注意事項:

- ライセンスキーの削除時に、削除対象のライセンスキーが使用されていないことを確認してください。
- 一時的であっても、ライセンスキーを 2 つのライセンスサーバで共用することは使用許諾契約違反であり、禁止します。 いかなる理由であっても、先に移動先にライセンスを追加し、後で移動元のライセンスを削除することはできません。
  - ✓ 利用者が順次移行する必要がある場合には、ご購入のうちの一部のライセンスを削除・移行するなどの方法で対応する必要があります。
  - ✓ スパークスシステムズ ジャパンより一時的な仮ライセンスの提供などは行なっておりませんので、ご購入のライセンスでご対応ください。
- 移動元のライセンスサーバが故障等により起動できない状態にある場合（ライセンスが利用できない状態にある場合）には、ライセンスキーの削除の作業は不要です。

Copyright (c) 2022-2025 Sparx Systems Japan

ライセンスキーを移動後、起動できないライセンスサーバが復旧した場合には、速やかに上記手順 1 の方法で復旧したライセンスサーバからライセンスキーを削除してください。その後、復旧したライセンスサーバを利用する場合には、改めて上記手順で移動先のライセンスサーバから復旧したライセンスサーバにライセンスキーを移動してください。

- ライセンスサーバの移行・変更にあたり、サポート窓口への連絡やライセンスの再発行など、サポートに連絡する必要のある手続きはありません。また、費用も発生いたしません。
  ただし、ライセンスのサポート期間終了後にインストーラの入手やライセンスの再発行（たとえば、ライセンスキーが分からないとき）などサポートの内容が必要な場合は、サポートの再開が必要となります。

- Pro クラウドサーバの有償のライセンス・トークンをご利用中の場合には、別途費用が発生する場合があります。詳細につきましては、以下のページをご確認ください。
  https://www.sparxsystems.jp/products/other/ProCloudServer.htm#editions

Copyright (c) 2022-2025 Sparx Systems Japan

7　SSKS形式・キーファイル形式からHTTPS形式への移行方法

7.1　SSKS形式からの移行

旧ライセンスサーバ（SSKS 形式、Windows サービス名「Sparx Systems Keystore Service」）を利用中で、Pro クラウドサーバのライセンスサーバ機能（HTTPS 形式、Windows サービス名「Sparx Systems Professional Cloud」）へ移行する場合の手順は次の通りです。尚、以下の説明は、同じライセンスサーバマシン内での移行を前提としています。もし、ライセンスサーバマシンも同時に移行する場合には、以下の Pro クラウドサーバに関する説明は、移行先のサーバで実施するものとしてご対応ください。

1. 旧ライセンスマネージャーでライセンスキーを削除します。「ライセンスキーの一覧」でライセンスキーを選択して右クリックし、削除を実行して下さい。
2. 旧ライセンスサーバのサービス（プロセス）「Sparx Systems Keystore Service」を停止してください。
3. Pro クラウドサーバをインストールします。2 章を参考に、適切に設定し、ライセンスサーバ機能が正しく動作することを確認してください。
   尚、旧ライセンスサーバで設定ファイル（keystoreService.config）を配置している場合は、設定ファイルの内容を元に、4 章の内容を確認し、必要に応じて設定を変更してください。また、旧ライセンスサーバで ActiveDirectory との連携や独自グループを定義している場合は、その情報を元に、2.11 章の設定を行なってください。
4. Pro クラウドサーバのライセンスマネージャーで上記 4 のライセンスサーバに接続し、上記 1 で削除したライセンスキーを追加してください。
5. 3 章を参考に、Enterprise Architect から HTTPS 形式でライセンス取得できることを確認してください。　※「フローティングライセンスの設定」画面では、旧ライセンスサーバのときと入力内容が異なります。詳細は 3.2 章をご確認ください。
6. 各 Enterprise Architect の利用者へ、設定の変更を通知してください。
7. 旧ライセンスサーバについては、継続利用する（ライセンスキーの登録がされている）場合は、これで作業完了になります。
   継続利用しない（ライセンスキーの登録がない）場合には、アンインストールしてください。（アンインストール対象は「Enterprise Architect ライセンスマネージャー」です。）

注意事項:

6 章の注意事項をご確認ください。

7.2　キーファイル形式からの移行

旧ライセンスサーバ（キーファイル形式）を利用中で、すべてのライセンスを Pro クラウドサーバの

Copyright (c) 2022-2025 Sparx Systems Japan

ライセンスサーバ機能（HTTPS 形式、Windows サービス名「Sparx Systems Professional Cloud」）へ移行する場合の手順は次の通りです。尚、ここで説明する手順では、ライセンスキーの一部のみを移動することはできませんのでご注意ください。

7.2.1 同一マシン内で移行する場合

1. 旧ライセンスマネージャーでキーファイルを削除します。旧ライセンスマネージャーのメニューから「ファイル」→「キーファイルを完全に削除」を実行します。
2. Pro クラウドサーバをインストールします。2 章を参考に、適切に設定し、ライセンスサーバ機能が正しく動作することを確認してください。
3. Pro クラウドサーバのライセンスマネージャーで上記 2 のライセンスサーバに接続し、上記 1 で削除したライセンスキーを追加してください。
4. 3 章を参考に、Enterprise Architect から HTTPS 形式でライセンス取得できることを確認してください。　※「フローティングライセンスの設定」画面では、旧ライセンスサーバのときと入力内容が異なります。詳細は 3.2 章をご確認ください。
5. 各 Enterprise Architect の利用者へ、設定の変更を通知してください。
6. 旧ライセンスサーバをアンインストールしてください。（アンインストール対象は「Enterprise Architect ライセンスマネージャー」です。）

注意事項:

6 章の注意事項をご確認ください。

7.2.2 異なるマシンへ移行する場合

1. 移行先マシンに Pro クラウドサーバをインストールします。2 章を参考に、適切に設定し、ライセンスサーバ機能が正しく動作することを確認してください。
2. 移行先マシンのライセンスマネージャーで上記 1 のライセンスサーバに接続し、移行元のライセンスサーバを「ファイル」→「ライセンスサーバに接続する」で管理対象として追加してください。
3. 上記 2 で追加したライセンスサーバを選択し、右クリック→「ライセンスキーの移行」を選択してください。
4. 表示された「ライセンスキーの移行」画面で、「移行先」に移行先ライセンスサーバを指定し、「OK」をクリックしてください。
5. 3 章を参考に、Enterprise Architect から HTTPS 形式でライセンス取得できることを確認してください。　※「フローティングライセンスの設定」画面では、旧ライセンスサーバのときと入力内容が異なります。詳細は 3.2 章をご確認ください。
6. 各 Enterprise Architect の利用者へ、設定の変更を通知してください。
7. 移行元のライセンスサーバをアンインストールしてください。（アンインストール対象は「Enterprise Architect ライセンスマネージャー」です。）

Copyright (c) 2022-2025 Sparx Systems Japan

注意事項:

- ライセンスのサポート期間終了後にインストーラの入手やライセンスの再発行（たとえば、ライセンスキーが分からないとき）などサポートの内容が必要な場合は、サポートの再開が必要となります。

Copyright (c) 2022-2025 Sparx Systems Japan

8　トラブルシューティング

この章では以下の項目に関するトラブルシューティングを記載しています。

- ライセンスマネージャーでライセンスサーバに接続できない
- クライアントからライセンスを取得できない
- クライアントからライセンスを取得できない（テストボタンより原因推測）
- セキュリティ警告が表示される
- 「提供された証明書は無効です」が表示される

8.1　ライセンスマネージャーでライセンスサーバに接続できない

以下のチェック項目をご確認ください。

1. SSL 証明書を配置していますか？
   2.6 章に沿って SSL 証明書を配置したかを確認してください。

2. サービスは起動していますか？
   Windows 管理ツールの「サービス」で、Pro クラウドサーバのサービスである「Sparx Systems Professional Cloud」が「実行中」であることを確認してください。「実行中」の場合には、念の為、サービスの再起動を行なってください。

3. ライセンスサーバマシン上のライセンスマネージャーを利用していますか？
   ライセンスサーバマシンと異なるマシン（マシン A）のライセンスマネージャーを利用している場合は、マシン A の IP アドレスを、ライセンスサーバマシンの Pro クラウトサーバサービスの White List に追加する必要があります。（2.10.7 章を参照）

4. ユーザー名（グループ）は正しいですか？
   ライセンスマネージャーでユーザー名（グループ）を確認してください。（2.11 章を参照）

5. パスワードは正しいですか？設定されていますか？
   ライセンスマネージャーでパスワードを再設定し、再度接続できるか確認してください。また、パスワードが未設定の場合、接続できません。（2.11 章を参照）

6. ユーザー名（グループ）に管理者権限は設定されていますか？
   ライセンスマネージャー上で設定する管理者権限になります。Windows の管理者権限とは異なります。ライセンスマネージャーで確認してください。（2.11 章を参照）

Copyright (c) 2022-2025 Sparx Systems Japan

7. ユーザー名（グループ）は有効期間中ですか？
   ライセンスマネージャーで確認してください。（2.11 章を参照）

8. サーバ名は正しいですか？
   サーバアドレスに「localhost」と入力しているか確認してください。

9. ポート番号は正しいですか？
   既定値は 1805 です。変更している場合の確認方法は、2.3 章をご覧ください。

10. ログを確認しましたか？
   動作の内容を解析するために、ログ出力のレベルを SYSTEM（既定値は INFO）に設定してください（5.2 章を参照）。その後、問題となる現象を再現させることで、ログから原因を特定できる可能性があります。ログファイルの既定の配置場所は C:¥Program Files¥SparxSystems Japan¥Pro Cloud Server¥Service¥Logs です。ログの内容については 5.3.2 章もご覧ください。

   ログファイルがない場合は、配置場所に対して書き込み権限がない可能性があります。その判定をするために、一時的に配置場所を誰でも読み書きできるように権限を変更した上で、サービスを再起動してログファイルが作成されるか確認してください。

   それでもログファイルが作成されない場合は、サービスが正しく動作していない可能性がありますので、サービスをアンインストールし、再度インストールして確認をしてください。尚、アンインストールすると server.pem や登録済みのライセンスキーなどが削除されることがありますので、事前に当該データのバックアップを取ってからアンインストールを実行してください。

上記で解決しない場合には、以下を添えてサポート窓口（support@sparxsystems.jp）までお知らせください。

- ✓ チェック項目の確認結果
- ✓ ログ
- ✓ エラー画面（画面表示があれば）
- ✓ ライセンスサーバのバージョン※
- ✓ 現在有効なサポート ID

※ライセンスサーバのバージョンは、サービスの実行ファイルのプロパティを開き、「詳細」タブの「製品バージョン」で確認できます。実行ファイルの既定の配置場所は以下となります。
C:¥Program Files¥SparxSystems Japan¥Pro Cloud Server¥Service¥SSProCloud.exe

Copyright (c) 2022-2025 Sparx Systems Japan

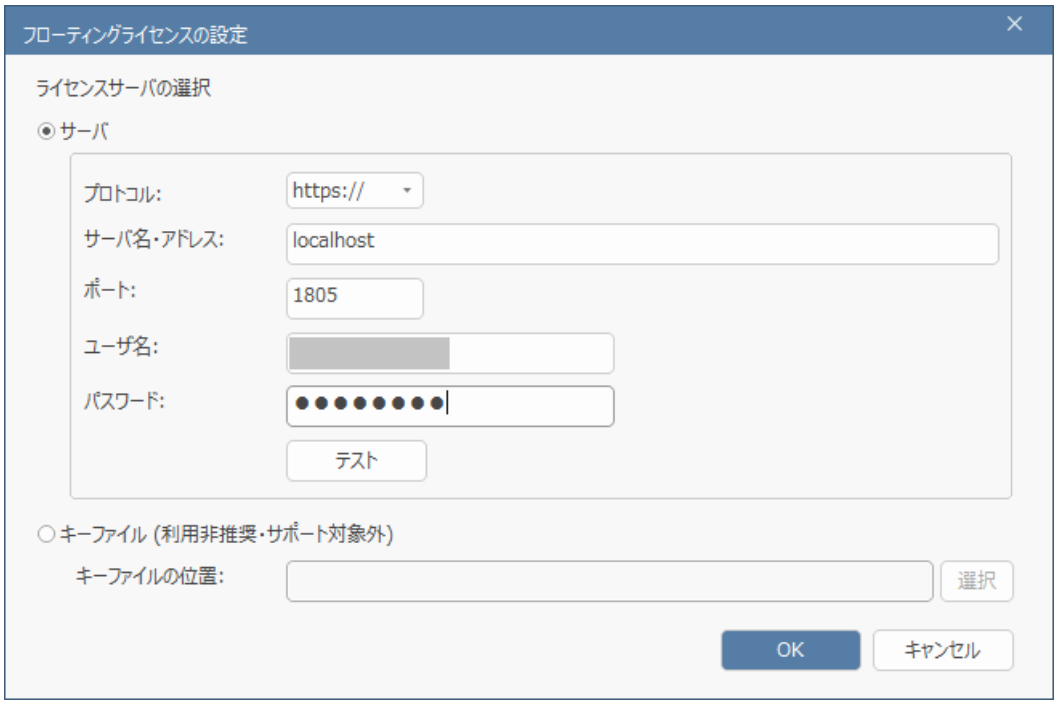
8.2 クライアントからライセンスを取得できない

以下のチェック項目をご確認ください。

1. サービスは起動していますか？
   Windows 管理ツールの「サービス」で、Pro クラウドサーバのサービスである「Sparx Systems Professional Cloud」が「実行中」であることを確認してください。

2. Active Directory のグループは未設定ですか？
   2.11 章で「Active Directory のグループ」を設定している場合は、一時的に設定を削除して、引き続きチェック項目を確認してください。もし、次項目以降の確認でライセンスを取得できた場合には、「Active Directory のグループ」の設定がライセンスを取得できない原因の可能性がありますので、2.11 章を確認してください。

3. ライセンスサーバマシンの Enterprise Architect でライセンスを取得できますか？
   Pro クラウトサーバをインストールしたマシンに Enterprise Architect をインストールし、下記画面のように「サーバ名・アドレス」に「localhost」と入力し、サーバ自身（localhost）でライセンスを取得できるか確認をしてください。(画面のポート番号は既定の 1805 としています)



ここでライセンスを取得できる場合は下記 4 を、取得できない場合は下記 5 を確認してください。

Copyright (c) 2022-2025 Sparx Systems Japan

4. 上記 3 でライセンスを取得できる場合

4-1. サーバ名・アドレス、ポート番号、ユーザー名（グループ）、パスワードは正しいですか？

クライアントでサーバ名・アドレス、ポート番号、ユーザー名（グループ）、パスワードを正しく入力しているか、再度確認してください。

4-2. IP アドレスでもライセンスを取得できないですか？

クライアントで「サーバ名・アドレス」に IP アドレスを指定してライセンスを取得できるか確認してください。例えば、https://example.com のような指定の代わりに、https://192.168.0.1 のような IP アドレスを指定します。

IP アドレスでライセンスを取得できる場合は、クライアントからライセンスサーバの名前を解決できていません。それぞれの会社・組織のネットワーク担当の方にお問い合わせください。

4-3. 他のクライアントマシンでもライセンスを取得できないですか？

他のクライアントマシンでライセンスを取得できる場合は、マシン固有の問題である可能性があります。ライセンス取得できるマシン・できないマシンで、設定内容に差異がないか確認してください。設定内容に差異がない場合は、以下の手順をお試しください。

尚、Enterprise Architect 起動時に「ライセンスの取得中にエラーが発生しました。」のエラーが表示されるケースも、以下の手順で解決できることが多いです。

(1) 作業用領域を削除する

a. Enterprise Architect を終了します。

b. 以下のページより「Enterprise Architect 設定情報の削除ツール」をダウンロードします。

https://www.sparxsystems.jp/products/EA/downloadExtra.htm

c. ダウンロードしたツールを起動します。

d. 削除対象の設定を以下にします。

「レジストリに保存している設定内容」：チェックを外す

「ファイルとして保存している設定内容」：チェックを入れる

e. 実行ボタンをクリックして処理を実行します。

f. Enterprise Architect を起動して、ライセンスを取得できるか確認します。

(2) 設定情報を削除する

この手順を実施した場合、利用していたアドインの再インストールが必要となりますのでご注意ください。

a. Enterprise Architect を終了します。

b. Enterprise Architect をアンインストールします。

Copyright (c) 2022-2025 Sparx Systems Japan

c. 上記のツールを起動します。
d. 削除対象の設定を以下にします。
「レジストリに保存している設定内容」：チェックを入れる
「ファイルとして保存している設定内容」：チェックを入れる
e. 実行ボタンをクリックして処理を実行します。
f. Enterprise Architect をインストールします。
g. Enterprise Architect を起動して、ライセンスを取得できるか確認します。

上記手順でも解決しない場合は、ネットワークの問題である可能性がありますので、それぞれの会社・組織のネットワーク担当の方にお問い合わせ下さい。

4-4. ライセンスサーバは TCP ポート（既定値は 1805）で通信できていますか？

当該ポートは、ファイアウォールで遮断されていることが多いです。通信できているかどうかは、ログで確認することができます。確認手順は以下のとおりです。

(1) ログ出力のレベルを DEBUG（既定値は INFO）に設定してください。ログ出力のレベル変更については、5.2 章をご覧ください。
(2) クライアントから、3.2 章の「フローティングライセンスの設定」画面でサーバ名・アドレス等の必要な情報を入力し、「テスト」をクリックしてください。
(3) ログファイルにクライアントマシンの IP アドレスで以下のような出力があるか確認してください。ログファイルの既定の配置場所は C:¥Program Files¥SparxSystems Japan¥Pro Cloud Server¥Service¥Logs です。

```
-----
2024-09-25 14:00:30 [DEBUG]:    Thread xx    Client connected from <IP アドレス>
-----
```

※IP アドレスが「::1」のログは、ライセンスサーバマシンでの操作によるもので、クライアントマシンの操作によるものではございませんのでご注意ください。

もし出力されていない場合は、当該ポートで通信ができていないため、通信できるようライセンスサーバ側の設定を見直してください。設定につきましては、2.4 章をご覧ください。

Copyright (c) 2022-2025 Sparx Systems Japan

5. 上記 3 でライセンスを取得できない場合

5-1. ユーザー名（グループ）は正しいですか？

ライセンスマネージャーでユーザー名（グループ）を確認してください。（2.11 章を参照）

5-2. パスワードは正しいですか？設定されていますか？

ライセンスマネージャーでパスワードを再設定し、ライセンスを取得できるか再度確認してください。パスワードが未設定の場合、ライセンスは取得できません。（2.11 章を参照）

5-3. ポート番号は正しいですか？

既定値は 1805 です。変更している場合の確認方法は、2.3 章をご覧ください。

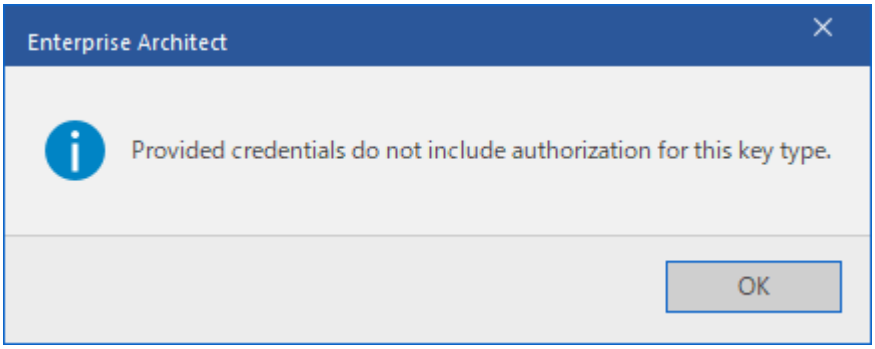
5-4. ユーザー名（グループ）は有効期間中ですか？

ライセンスマネージャーで確認してください。（2.11 章を参照）

5-5. ユーザー名（グループ）は通常ユーザー（管理者権限なし）ですか？

ライセンスマネージャー上で管理者権限が設定されているユーザー名（グループ）はライセンスの取得はできません。この管理者権限は、Windows の管理者権限とは異なります。ライセンスマネージャーで確認してください。（2.11 章を参照）

もし、管理者権限が設定されているユーザー名（グループ）でライセンスを取得しようとした場合は、以下のような「Provided credentials do not include authorization for this key type.」のエラーが表示されます。



5-6. ライセンスキーは設定されていますか？

ライセンスマネージャーで確認してください。（2.10.1 章を参照）

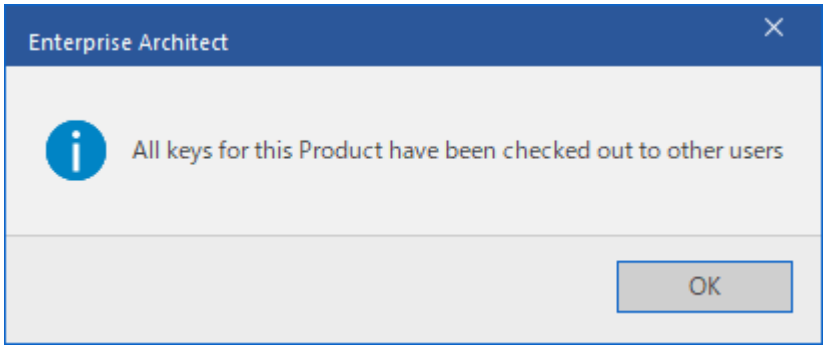
5-7. 利用可能なライセンスはありますか？

すべてのライセンスが利用中の可能性があります。ライセンスマネージャーで確認してください。（2.10.1 章を参照）

もし、利用可能なライセンスが無い場合は、以下のような「All keys for this Product have been

Copyright (c) 2022-2025 Sparx Systems Japan

checked out to other users」のエラーが表示されます。



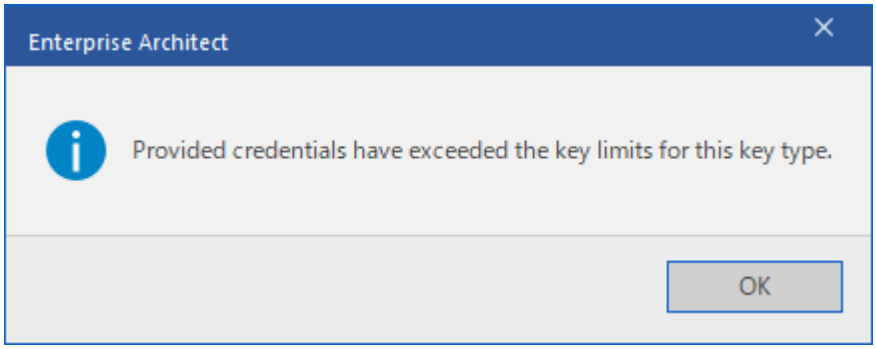
5-8. 利用可能な製品が設定されていますか？

当該ユーザー名（グループ）に対して、お持ちのライセンスと同じ製品が割り当てられているかをライセンスマネージャーで確認してください。（2.11 章を参照）

5-9. 利用者が上限数に達していませんか？

当該ユーザー名（グループ）に対して、製品ごとの「上限」を指定している場合、指定された本数までライセンスを利用可能となります。ライセンスマネージャーで上限数と利用状況を確認してください。（2.11 章、2.10.1 章を参照）

もし、上限数に達している場合は、以下のような「Provided credentials have exceeded the key limits for this key type.」のエラーが表示されます。



5-10. ログを確認しましたか？

動作の内容を解析するために、ログ出力のレベルを SYSTEM（既定値は INFO）に設定してください（5.2 章を参照）。その後、問題となる現象を再現させることで、ログから原因を特定できる可能性があります。ログファイルの既定の配置場所は C:¥Program Files¥SparxSystems Japan¥Pro Cloud Server¥Service¥Logs です。ログの内容については 5.3.2 章もご覧ください。

ログファイルがない場合は、配置場所に対して書き込み権限がない可能性があります。その判定をするために、一時的に配置場所を誰でも読み書きできるように権限を変更した上で、サービスを再起動してログファイルが作成されるか確認してください。

Copyright (c) 2022-2025 Sparx Systems Japan

それでもログファイルが作成されない場合は、サービスが正しく動作していない可能性がありますので、サービスをアンインストールし、再度インストールして確認をしてください。尚、アンインストールすると server.pem や登録済みのライセンスキーなどが削除されることがありますので、事前に当該データのバックアップを取ってからアンインストールを実行してください。

上記 5 の内容で解決しない場合には、以下を添えてサポート窓口（support@sparxsystems.jp）までお知らせください。

- ✓ チェック項目の確認結果
- ✓ ログ
- ✓ エラー画面（画面表示があれば）
- ✓ ライセンスサーバのバージョン※
- ✓ 現在有効なサポート ID

※ライセンスサーバのバージョンは、サービスの実行ファイルのプロパティを開き、「詳細」タブの「製品バージョン」で確認できます。実行ファイルの既定の配置場所は以下となります。
C:¥Program Files¥SparxSystems Japan¥Pro Cloud Server¥Service¥SSProCloud.exe

Copyright (c) 2022-2025 Sparx Systems Japan

8.3 クライアントからライセンスを取得できない（テストボタンより原因推測）

ここでは、「フローティングライセンスの設定」画面で「テスト」をクリックしたときに表示される、「フローティングライセンスサーバに接続できません」のエラー画面の内容から考えられる原因を記載します。

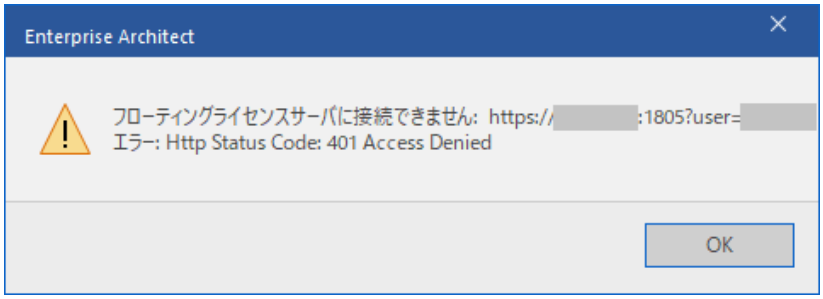
➢ エラーの原因が表示されていない場合

考えられる原因：

✓ ユーザー名（グループ）にライセンスが割り当てられていない（2.11 章を参照）

✓ ユーザー名（グループ）に管理者権限が付与されている（2.11 章を参照）

➢ エラー: Http Status Code: 401 Access Denied



考えられる原因：

✓ ユーザー名（グループ）が間違っている

✓ パスワードが間違っている

✓ ユーザー名（グループ）にパスワードが設定されていない（2.11 章を参照）

✓ ユーザー名（グループ）の有効期間が終了している（2.11 章を参照）

Copyright (c) 2022-2025 Sparx Systems Japan

➢ エラー: サーバー名またはアドレスは解決されませんでした

考えられる原因：

✓ サーバ名・アドレスが間違っている

➢ エラー: 処理がタイムアウトになりました

考えられる原因：

✓ サービスが起動していない

✓ server.pem が正しく作成・配置されていない（2.5 章、2.6 章を参照）

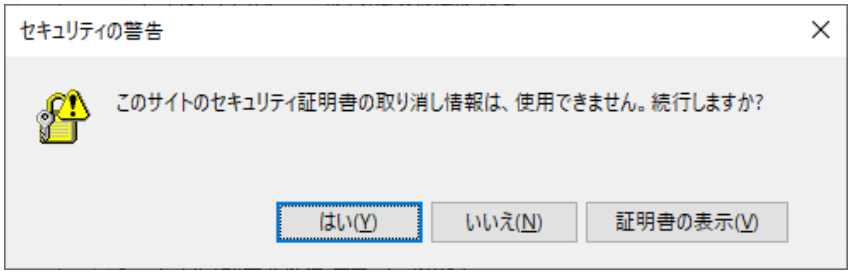
✓ ポート番号が間違っている（2.3 章を参照）

✓ 上記以外の理由でライセンスサーバと通信ができていない（8.2 章の 4-4 を参照）

Copyright (c) 2022-2025 Sparx Systems Japan

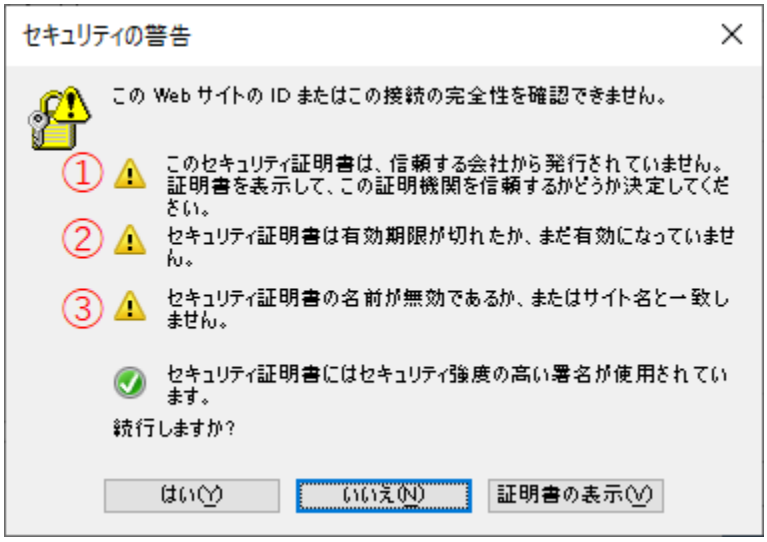
8.4 セキュリティ警告が表示される

以下のようなセキュリティ警告が表示される場合、



ルート証明書がインポートされていないか、正しい場所にインポートされていない可能性があります。ライセンスサーバマシンの場合は 2.8 章、クライアントマシンの場合は 3.1 章、を確認してください。

以下のようなセキュリティ警告（⚠）が表示される場合、



①「このセキュリティ証明書は、信頼する会社から発行されていません。証明書を表示して、この証明機関を信頼するかどうか決定してください。」

- ✓ 2.5.2.2(1)章でサーバ証明書のみ作成した場合は、ルート証明書がありませんので当該警告が表示されます（正しい動作です）。
- ✓ 2.5.2.2(2)章でルート証明書も作成した場合は、ルート証明書が正しく作成もしくはインポートされていない可能性があります。2.5.2 章、2.8 章を確認してください。

②「セキュリティ証明書は有効期限が切れたか、まだ有効になっていません。」

- ✓ 2.5.1 章で証明書を作成した場合は、作成時に利用した署名済みの SSL 証明書の有効期限を確認してください。終了している場合は、現在有効な証明書を作成してください。

Copyright (c) 2022-2025 Sparx Systems Japan

✓ 2.5.2 章で証明書を作成した場合は、作成時に設定した有効期限が切れている可能性があります。2.5.2 章で作成されたサーバ証明書 server.crt をダブルクリックして表示される「詳細」タブの「有効期間の終了」の日時を確認し、終了している場合は現在有効な証明書を再度作成してください。

③「セキュリティ証明書の名前が無効であるか、またはサイト名と一致しません。」

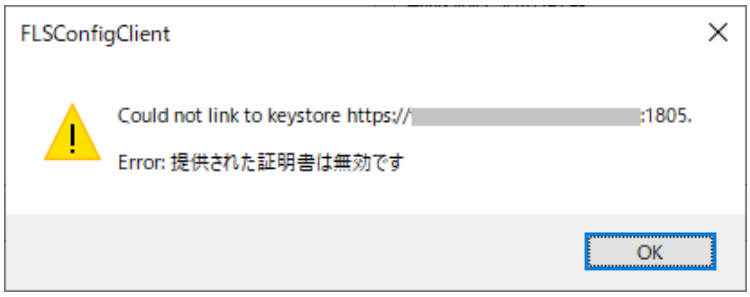
2.5.2 章で作成されたサーバ証明書 server.crt をダブルクリックして表示される「詳細」タブの「サブジェクト代替名」の内容と、「ライセンスサーバの選択」画面でサーバアドレスに入力した内容が同じかどうか確認してください。サーバアドレスを IP アドレスで指定している場合は、2.5.2.3 章の設定ファイルで当該 IP アドレスを設定する必要があります。もし、サーバ証明書の内容が間違っている場合には、2.5.2 章から SSL 証明書を再度作成してください。

尚、セキュリティ警告（⚠）が表示される画面で「はい」をクリックして、ライセンスサーバに接続できる（クライアントマシンであれば、ライセンスを取得できる）ようでしたら、そのままご利用いただくこともできます。ただし、警告表示される状態でのご利用につきましては、ネットワークの運用方針によりますので、それぞれの会社・組織のネットワーク担当の方にお問い合わせ下さい。

8.5 「提供された証明書は無効です」が表示される

以下のような「提供された証明書は無効です」のエラーが表示される場合、2.5.2 章で独自の自己署名の SSL 証明書を作成していれば、証明書を正しく作成できていない可能性があります。2.5.2.3 章でご自身の環境に合わせて赤字を修正しているか確認してください。

Could not link to keystore https://…



9　その他の情報

9.1　リモート環境におけるフローティングライセンスの設定

Enterprise Architect を利用する際に、以下に説明するレジストリキーを利用者ごとに事前に設定することで、Enterprise Architect が起動時に取得するライセンスを指定することができます。

※2.5.2.2(1)章で証明書を作成した場合は、Enterprise Architect を起動するたびにルート証明書がない旨のセキュリティ警告（2.5.2.2(2)章を参照）が表示されます。この警告の表示回数を減らしたい場合は、以下のレジストリキーの事前設定は行なわず、3.2 章の方法でライセンス設定を行なってください。

[HKEY_CURRENT_USER¥Software¥Sparx Systems¥EA400¥EA¥OPTIONS] ※32 ビット版
[HKEY_CURRENT_USER¥Software¥Sparx Systems¥EA64¥EA¥OPTIONS] ※64 ビット版
"AutoCheckoutEx"=hex:1a,00,00,00
"SKT"=dword:00000001
"SSKSAddress"="https://default@example.com:1805?user=default"
"SSKSPassword"="service password（暗号化された情報として保持）"

各項目の説明は以下の通りです。

・AutoCheckoutEx：
値は 1 製品について 4 バイトで構成され、最初の 1 バイトは製品の種類を示します。製品の種類を示す番号は、後述の表をご覧ください。2 バイト目は、現状は常に 00 です。3 バイト目は 00 で通常のライセンスを示し、01 でアカデミックライセンスを示します。4 バイト目も常に 00 です。
複数の値を AutoCheckoutEx のレジストリに設定する場合には、それぞれの製品ごとに 4 バイトになります。

・SKT：
サーバプロセス方式を示す 1 を指定します。キーファイル方式は 0 です。

・SSKSAddress：
サーバ名・アドレスとユーザー名（前述例では default）を組み合わせた形で指定します。

・SSKSPassword
ssflsgroups.config（配置場所は 4 章を参照）で保持している暗号化されたパスワード情報を指定します。

Copyright (c) 2022-2025 Sparx Systems Japan

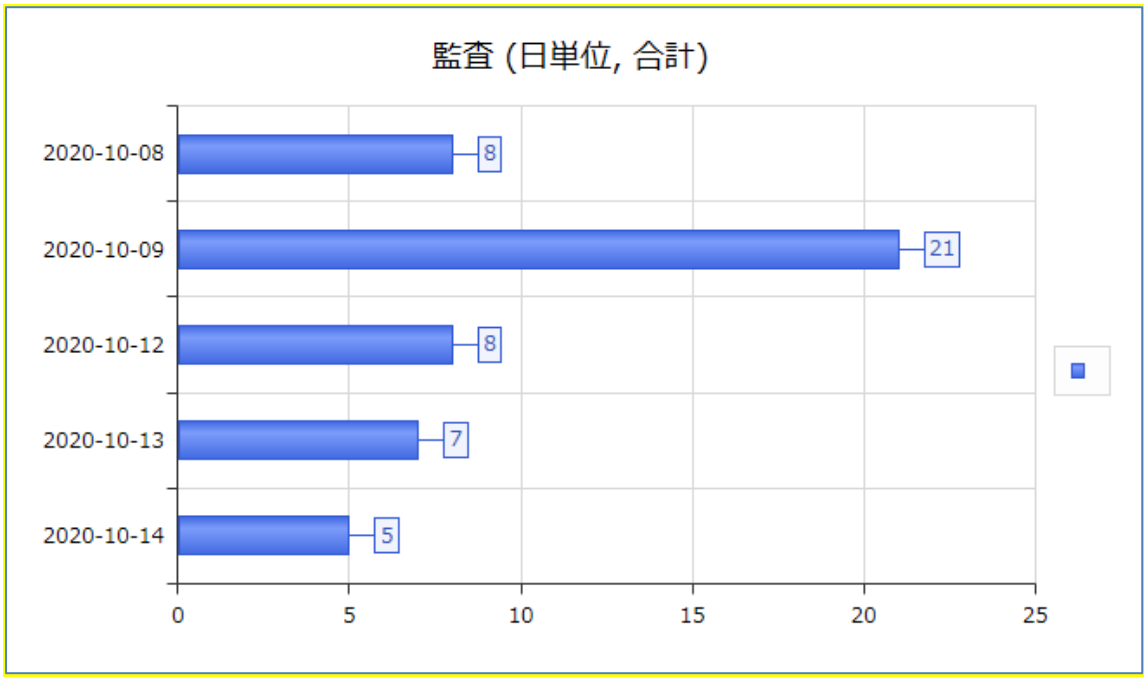
AutoCheckoutEx で製品の種類を示す番号は以下の表の通りです。

製品名	値
Enterprise Architect プロフェッショナル版	01
Enterprise Architect コーポレート版	02
Enterprise Architect ユニファイド版 （旧ビジネスモデリング版、旧システムエンジニアリング版）	19
Enterprise Architect アルティメット版	1a
RaQuest フローティング	0c

Copyright (c) 2022-2025 Sparx Systems Japan

9.2　ログ解析アドインについて

ライセンスサーバのログは、5.1 章に記載の通りテキストファイルに出力されます。この出力された内容をグラフとして表示することのできるアドインを提供しています。（サポートが有効な期間中のみ動作する「動作期間限定アドイン」です。）



このログ解析は、Enterprise Architect のアドインとして作成し、Enterprise Architect の機能の 1 つである「スクリプト連携のチャート」を利用して実現しています。そのため、利用するためには以下の条件を満たす必要があります。

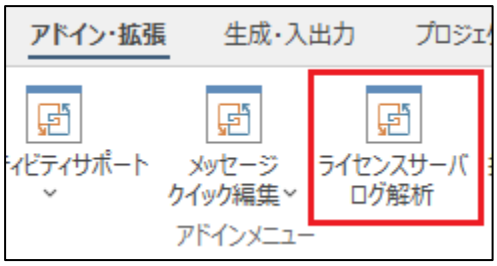
- Enterprise Architect バージョン 15.2 以降
  （スクリプト連携のチャートがバージョン 15.2 で追加されたため）
- コーポレート版以上のエディション
  （スクリプト連携のチャートはプロフェッショナル版では利用できないため）

利用するための手順は以下の通りです。

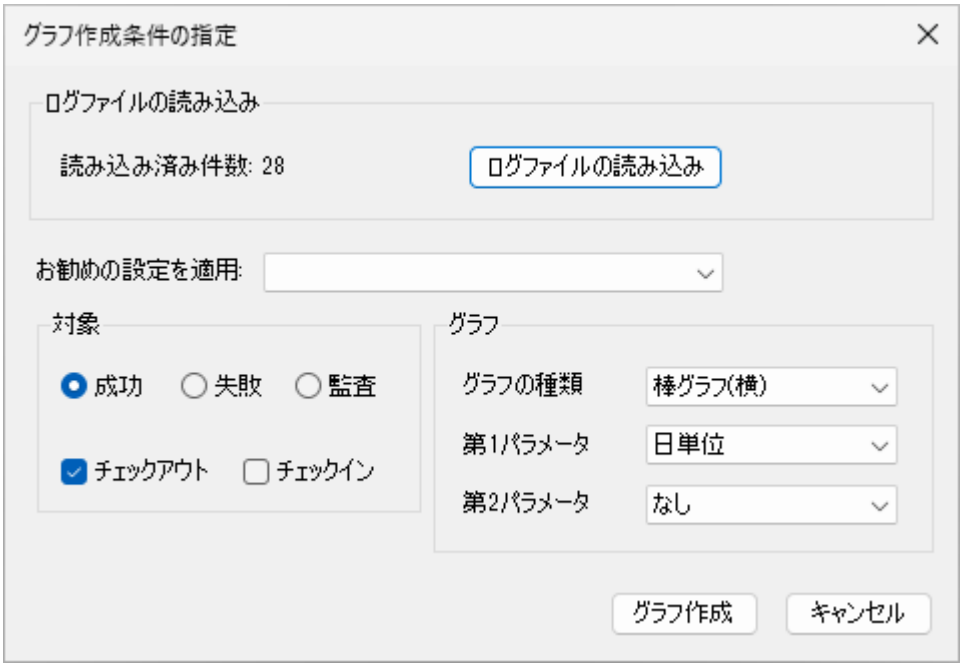
1. 以下のページから「ライセンスサーバ ログ解析アドイン」をダウンロード・インストールしてください。
   https://www.sparxsystems.jp/products/EA/tech/Addins.htm#LicenseLogAnalyzer
2. Enterprise Architect を起動し、新規にプロジェクトファイルを作成するか、既存のプロジェクトファイルを開きます。
3. 解析した結果のグラフを配置するために、ダイアグラムを作成するか、既存のダイアグラムを開きます。

Copyright (c) 2022-2025 Sparx Systems Japan

4. 「アドイン・拡張」リボン内の「ライセンスサーバ ログ解析」ボタンを押します。



5. 「グラフ作成条件の指定」画面が表示されますので、「ログファイルの読み込み」ボタンを押してログファイルを読み込みます。
   - 複数のログファイルの指定も可能です。
   - ライセンスサーバが動作中の場合には、現在書き込み中のファイルを指定して解析することはできません。ライセンスサーバを停止してください。
   - 一度読み込んだログファイルは、Enterprise Architect を終了させるまではそのまま維持されます。1 つのログファイルに対してさまざまなグラフを作成する場合には、ログファイルは 1 回のみ読み込んでください。
   - 読み込んだログファイルの内容を消去する機能はありません。消去する必要がある場合には、Enterprise Architect を再起動してください。



6. 次に、「お勧めの設定を適用」から選択するか、「対象」枠内でログの解析対象を指定してください。
   - ライセンスの利用状況を知るためには「成功」を、問題を発見するには「失敗」を選択します。
   - <u>「監査」は現時点では機能しません。</u>Pro クラウドサーバのライセンスサーバ機能には、「監査」のグラフ作成で必要なフローティングライセンスに関する監査ログを出力する機能が実装されていないためです。（現時点では、「監査」は旧ライセンスサーバ（SSKS 形

Copyright (c) 2022-2025 Sparx Systems Japan

式）向けの機能となります。）

尚、監査ログを出力する機能の実装については、開発元で将来課題となっています。

7. 「グラフ」枠内で、グラフの形式とグラフ化する値を指定します。
    - 「第 1 パラメータ」「第 2 パラメータ」の選択肢は、ログの解析対象の選択によって変わります。
    - ログの設定によっては、指定したパラメータの値がログに出力されていない場合があり、グラフの内容が空になる場合があります。
8. 「グラフ作成」ボタンを押すと、開いているダイアグラムにグラフを要素として配置します。
9. 作成後は、Enterprise Architect の機能で、印刷・画像としてコピー・Word ドキュメント生成など形で出力できます。
10. また、このグラフはスクリプト連携のチャート要素として生成されていますので、チャートの内容を表現しているスクリプトを編集することで、表示内容を調整することも可能です。生成されたチャート要素を右クリックして「チャートスクリプトの編集」を実行してください。チャートの元になる JavaScript が表示され、編集することできます。

    編集の一例として、グラフ内の各項目に表示される数値を非表示にしたい場合には、8 行目の「chart.ShowDataLabels(true, true, true, false);」を削除してください。

    チャート機能に関する API の詳細は、Enterprise Architect のヘルプに記載しています。

「お勧めの設定を適用」は、需要が多いと思われる以下の設定を行うことができます。

- それぞれの日のライセンスの最大利用数を把握する（全体・製品ごと）
- 誰がライセンスを利用しているのかを把握するため
- 利用状況に問題がないかどうかを把握する

Copyright (c) 2022-2025 Sparx Systems Japan

9.3　特定ユーザーに対するアクセス制限

特定のユーザーがフローティングライセンスを利用できないようにアクセスを制限（アクセスをブロック）したい場合、ライセンスサーバ側での対応方法としては、Active Directory との連携（2.11 章を参照）を利用する方法となります。

ライセンスサーバ以外で対応する方法としては、以下があります。

・Windows 側の設定（ファイアウォール等）で、特定ユーザーがライセンスサーバにアクセスできないようにする
・AWS 等のクラウドを利用している場合、クラウド側の設定で利用ユーザーを制限する
　ただし、具体的な設定方法等は標準サポート外となりますので、お客様自身で設定いただけますようお願いいたします。

9.4　フローティングライセンスの事前動作確認

サポートが有効なスタンダードライセンスをお持ちのお客様が、フローティングライセンスの購入を目的として、お客様の環境でフローティングライセンスを利用できるかどうかを事前に確認したい場合は、1 章をご確認いただき、具体的な手順として 2 章～3 章を実施してください。尚、インストーラやサンプルの SSL 証明書のダウンロードには、ダウンロード時点で有効なサポート ID とパスワードが必要となります。

9.5　フローティングライセンス利用状況の把握

フローティングライセンスの利用状況を把握するためには、ログを確認する必要があります。ログにつきましては、5 章をご確認ください。ライセンスの取得や解放などに関する具体的なログの内容につきましては、5.3.1 章をご確認ください。9.2 章の「ログ解析アドイン」を利用することもできます。尚、「ログ解析アドイン」でご要望を満たせない場合は、お客様自身でログを解析いただく必要があります。

Copyright (c) 2022-2025 Sparx Systems Japan

○改版履歴

日付	改定内容
2022/11/21	・初版
2022/11/25	・2.5.2 章について、バッチファイル・設定ファイルを既定パスからコピーして配置する内容に変更。
2022/12/27	・2.8 章、3.4 章に、管理者権限を持つユーザーはライセンス取得できない旨を追記。
2023/01/23	・1.3 章について、必要システム構成へのリンクを更新。
2023/02/02	・トラブルシューティングの構成変更と内容更新。
2023/02/08	・8.2 章に、チェック項目を追記。
2023/03/03	・2.5.2.3 章について、DNS 順の調整と、変更が必要な項目に関する補足を追記。
2023/03/06	・2.5.2.3 章について、DNS 順の調整。
2023/03/08	・2.5.2.3 章、2.6 章に、IP アドレス指定に関する補足を追記。
2023/03/10	・2.6 章、3.2 章、8 章で、セキュリティ警告に関する内容を追加・更新。
2023/04/26	・2.8 章、8.2 章に、Active Directory のグループの設定に関する補足を追記。
2023/05/08	・8.2 章に、設定情報の削除ツールを利用した確認手順を追記。
2023/05/11	・6 章、7.2.2 章に、サポート期間終了後のインストーラ等の入手について追記。
2023/05/26	・2.5.2.3 章に、DNS、IP アドレスに関する補足を追記。
2023/05/29	・2.6 章、2.8 章、3.2 章、8 章で、管理者権限に関する補足を追記。
2023/06/15	・Enterprise Architect バージョン 16.1 ビルド 1626 リリースに伴い、内容更新。 ・1 章に、旧形式からの主な変更点を追記。 ・2.7.6 章に、必要なバージョンを追記。
2023/06/30	・7.1 章に、設定ファイルに関する補足を追記。 ・8.1 章に、サービス起動に関する補足を追記。
2023/07/06	・2.5.3 章として、サンプルの SSL 証明書に関する内容を追記。 ・SSL 証明書作成に関する補足を追記。 ・3.2 章に、ライセンス設定に関する補足を追記。 ・5.3.1 章に、ライセンス取得失敗に関するログを追記。 ・9.5 章として、フローティングライセンスの事前動作確認の内容を追記。 ・章立て・文言・体裁の調整。
2023/07/10	・1 章に、新形式の変更点を追記。 ・5.3.2.2 章に、対策方法の補足を追記。 ・8.1 章、8.2 章で、対応方法を更新。
2023/07/11	・7 章、「フローティングライセンスの設定」画面では旧ライセンスサーバのときと入力内容が異なる旨を追記。
2023/07/25	・1 章、お客様番号ごとのライセンスサーバ構築について追記。 ・2.9 章、ライセンスマネージャーからの接続に関する補足を追記。
2023/08/03	・8 章、参照番号の誤記を修正。 ・旧製品の情報を削除。 ・本ドキュメントの対象が Pro クラウドサーバ日本語版であることを追記。
2023/08/25	・2.5.1 章、署名済みの SSL 証明書の発行元・形式に関する補足を追記。
2023/11/14	・誤記修正。
2023/11/17	・9 章、フローティングライセンスに関するリンク切れ情報を削除。
2023/11/28	・9.2 章、アドインに関する補足追記。
2023/12/06	・9.5 章、フローティングライセンス利用状況の把握に関する内容追加。
2024/02/07	・8.2 章、管理者権限でフローティングライセンスを取得した場合の補足を追記。
2024/05/24	・2.9 章、8.3 章、セキュリティ警告に関する内容追加。 ・文言・体裁の調整。
2024/06/05	・新たな 8.3 章を追加。

Copyright (c) 2022-2025 Sparx Systems Japan

日付	改定内容
2024/06/26	・6 章、注意事項を追記。
2024/07/04	・3.2 章、ライセンス変更に関する内容を更新。
2024/07/22	・2.4 章、2.5.2 章、2.10.7 章、8.2 章、補足追記。
2024/08/02	・8.2 章、補足追記。
2024/09/24	・7.1 章、補足追記。
2024/09/26	・Enterprise Architect バージョン 17.0 ビルド 1703 リリースに伴い、内容更新。
2025/01/24	・8.2 章、補足追記。
2025/04/02	・1.2 章、Windows アカウント名の全角文字に関する内容を追記。
2025/04/03	・2.11 章、ライセンスを割り当てられる製品の内容を修正。
2025/05/27	・2.4 章、環境により個別にファイアウォールの設定が必要な旨を強調。 ・8.2 章、説明をリンク参照に変更。
2025/07/08	・6 章、ライセンスサーバ移行に関する注意事項を追記。

Copyright (c) 2022-2025 Sparx Systems Japan